

Adobe Illustrator® Plug-ins

バーコード *ROB04*<sup>TM</sup>  
組版 *ROB04*<sup>TM</sup>

リファレンス編・改訂 13 版

(C)1994-2018 有限会社ナカエソフトウェア開発 All Rights Reserved.

バーコード ROBO4, 組版 ROBO4 は有限会社ナカエソフトウェア開発の商標です。

Adobe, Illustrator は Adobe Systems Incorporated(アドビ システムズ社) の登録商標です。

Mac OS X, OS X, macOSはApple Inc.の登録商標です。

Windows, Excel は Microsoft Corporation の登録商標です。

FileMaker, ファイルメーカーは FileMaker, inc. の登録商標です。

QR コードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

その他全てのブランド名または製品名はそれらの所有者の商標もしくは登録商標です。

§ このリファレンスの構成

このリファレンスは、バーコード ROBO4 および組版 ROBO4 の、おもに個々の機能パレットの項目の意味を参照していただくために用意したものです。バーコード ROBO4 または組版 ROBO4 の具体的な使い方についてはチュートリアル編をお読み下さい。チュートリアル編でのバーコード ROBO4 のレッスンでは JAN13 コードを取り上げていますが、JAN13 についてのパレットの操作方法を習得すれば、他のバーコード種についての基本的な使い方も習得できます。バーコード種ごとに異なる個別の設定項目についてはこのリファレンス編をご覧ください。

このリファレンスは、次の 4 つの章から構成されています。

- 第 1 章 バーコード ROBO4
- 第 2 章 組版 ROBO4
- 第 3 章 プリセット・メニュー
- 第 4 章 サポートなど

各章はいくつかのセクションから成っています。セクションはほぼ機能パレットごとに分かれています。結果的に「第 1 章 バーコード ROBO4」のセクションはバーコード種ごとに分かれています。

このリファレンスはバーコード ROBO4 パッケージと組版 ROBO4 単体パッケージで共用しています。したがって、パッケージおよび使用目的の応じて次に示す章またはセクションを参照してください。

● 組版 ROBO4 単体ユーザの方

- 第 2 章 組版 ROBO4
- 第 3 章 プリセット・メニュー
- 第 4 章 サポートなど

● バーコード ROBO4 ユーザの方

◎ 特定のバーコードの作成だけを行う場合

- 第 1 章 バーコード ROBO4
- 第 3 章 プリセット・メニュー
- 第 4 章 サポートなど
- ※連番でバーコードを出力する場合は 第 2 章組版 ROBO4 の「組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列」のセクション

◎ バーコードの作成がメインだが外部データを取り込んだ作成もおこなう場合。あるいは組版 ROBO4 の機能もフル活用する場合

全てのページ

# 目次

§ このリファレンスの構成 —4

## 第1章 バーコード ROBO4 —9

- ▶ バーコード ROBO4 > JAN13 (EAN13), アドオン —10
- ▶ バーコード ROBO4 > JAN8 (EAN8), アドオン —12
- ▶ バーコード ROBO4 > UPC A, アドオン —14
- ▶ バーコード ROBO4 > UPC E, アドオン —16
- ▶ バーコード ROBO4 > 書籍 JAN, 日本図書コード —18
- ▶ バーコード ROBO4 > 共通雑誌コード —20
- ▶ バーコード ROBO4 > コーダバー (NW-7) —22
- ▶ バーコード ROBO4 > CODE39 標準, フルセット —24
- ▶ バーコード ROBO4 > GS1-128 (UCC/EAN128), CODE128 —26
- ▶ バーコード ROBO4 > CODE11 —28
- ▶ バーコード ROBO4 > CODE93 —30
- ▶ バーコード ROBO4 > 物流商品コード (ITF), アドオン —32
- ▶ バーコード ROBO4 > Interleaved 2 of 5 —34
- ▶ バーコード ROBO4 > Code 2 of 5 (Industrial 2 of 5) —36
- ▶ バーコード ROBO4 > Matrix 2 of 5 —38
- ▶ バーコード ROBO4 > NEC 2 of 5 —40
- ▶ バーコード ROBO4 > MSI (Plessey) —42
- ▶ バーコード ROBO4 > 郵便カスタマ —44
- ▶ バーコード ROBO4 > PostNet —46
- ▶ バーコード ROBO4 > GS1 データバー タイプ1 (GS1 DataBar) , CC-A/B —48
- ▶ バーコード ROBO4 > GS1 データバー タイプ2 (GS1 DataBar Limited) , CC-A/B —50
- ▶ バーコード ROBO4 > GS1 データバー タイプ3 (GS1 DataBar Expanded) , CC-A/B —52
- ▶ バーコード ROBO4 > QR コード —54
- ▶ バーコード ROBO4 > QR コード > ケータイ用フォーム —56
- ▶ バーコード ROBO4 > QR コード > 特殊キャラクタの表記規則 —58

- ▶ バーコード ROBO4 > マイクロ QR コード —60
- ▶ バーコード ROBO4 > Data Matrix (ECC 200) ※ CS6 以降用で対応 —62
- ▶ バーコード ROBO4 > チェックデジットについての補足 —64
- ▶ バーコード ROBO4 > バーコードを印刷する際の注意 —66
- ▶ バーコード ROBO4 > バーコードを使用する際の注意 —67
- ▶ バーコード ROBO4 > バーコードに関する参考文献など —68

## 第2章 組版 ROBO4—71

- ▶ 組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列 —72
- ▶ 組版 ROBO4 > レコード順次取り込み配列 —74
- ▶ 組版 ROBO4 > レコードちらし取り込み —76
- ▶ 組版 ROBO4 > レコード逐一取り込み —78
- ▶ 組版 ROBO4 > テキスト自動調整 —80
- ▶ 組版 ROBO4 > 取り込みデータの特特殊キャラクタの表記規則 —82

## 第3章 プリセット・メニュー —85

- ▶ プリセット・メニュー > 保存ファイルについての詳細情報 —86

## 第4章 サポートなど —89

- ▶ サポートなど > FAQ (よくある質問と答え) —90
- ▶ サポートなど > お問い合わせ方法 —92

## 第1章

## バーコード ROBO4

## ▶ バーコード ROBO4 > JAN13 (EAN13), アドオン

JAN13 (EAN13) は JIS X 0507 (ISO/IEC 15420) に規格化されているものです。JAN と EAN は呼び名が異なるだけで同じものです。

【参考】14 桁コード化？

国際標準の商品コードである GTIN (Global Trade Item Number) がわが国に導入されても、JAN14 (EAN14) シンボルなるものが新たに採用されるわけではありません。共通商品コードのシンボルとしてはあくまでも JAN13 (EAN13) / JAN8 (EAN8) シンボルが利用されます。またわが国での集合包装 (段ボール) 用シンボルとしては、GTIN 導入後は ITF14 桁 (標準バージョン) が使われます。いずれもバーコード ROBO4 で問題なく作成できます。

GTIN の詳細については、財団法人流通システム開発センターの Web サイト (<http://www.dsri.jp/>) などを参照してください。



パレット項目について

◎ データ :

本体部のデータ。末尾のチェックデジットを除く 12 桁の数字データを入力して下さい。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。 (「文字 : 揃え :」 が標準フォーマット以外の場合)

チェックデジットはデータ欄の右隣りに表示されます。

◎ データ : 出力 (チェックボックス)

本体部のデータ文字の出力を制御。

◎ アドオンデータ :

追加シンボルのデータ。2 桁または 5 桁の数字データを入力して下さい。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。 (「文字 : 揃え :」 が標準フォーマット以外の場合)

◎ アドオンデータ : 出力 (チェックボックス)

追加シンボルのデータ文字の出力を制御。

◎ 文字をアウトライン化 (チェックボックス)

データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ 拡大縮小率 (%) :

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。  
JIS X 0507 では 80% ~ 200 % とされています。

◎ シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm) : / ベアラバーを除く 幅 (mm) × 高さ (mm) : / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm) : (ポップアップ)

3 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ / ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ / バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ 作成 / 再生 (ボタン)

バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

◎ データバーの高さ (mm) :

標準フォーマット出力時の短いバーの高さ。

通常は「シンボルの全高 (mm) : / ベアラバーを除く 高さ (mm) : / バーのみの高さ (mm) : (ポップアップ)」の選択とその値で調整して下さい。初期設定値が JIS X 0507 の参考寸法です。

◎ ガード、センターバーの高さ (mm) :

標準フォーマット出力時の長いバーの高さ。

通常は「シンボルの全高 (mm) : / ベアラバーを除く 高さ (mm) : / バーのみの高さ (mm) : (ポップアップ)」の選択とその値で調整して下さい。初期設定値が JIS X 0507 の参考寸法です。

◎ 本体とアドオン間の空き (mm) :

本体部とアドオン (追加) 部間にある空白部の水平長。JIS X 0507 の最小寸法は 7X (初期設定値)、最大寸法 12X です。→注記

◎ 左右余白 (mm) :

フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。JIS X 0507 の最小寸法は左 11X、右 7X です (初期設定値)。追加シンボルがある場合の右は 5X です。→注記

◎ 上下余白 (mm) :

フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。初期設定値が基本寸法です。  
※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

◎ ベアラバーなし / 枠ベアラバーの幅 (mm) : / 上下ベアラバーの幅 (mm) : (ポップアップ)

ベアラバーを設定するときは、2 通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型 / 上下だけのもので設定するの意。

◎ 黒バー幅の補正值 (1/1000mm) :

1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

◎ 文字 : フォント : (ポップアップ)

OCR-B が標準。

◎ 文字 : サイズ (pt) :

データ文字のサイズを指定します。

◎ 文字 : サイズ (pt) : 標準 (ボタン)

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

◎ 文字 : 揃え : (ポップアップ)

「標準フォーマット / 左 / 中央 / 右 / べた」から選択して下さい。べたはアドオンデータがあるときに本体データに連結して左揃えにします。

◎ 文字 : 垂直位置 (mm) :

本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

◎ 文字 : アドオン垂直位置 (mm) :

アドオンデータ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

◎ 文字 : トラッキング (em/1000) :

データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。「文字 : 揃え :」 が標準フォーマット以外のときに有効です。

◎ 文字 : 行方向比率 (%) :

データ文字の行方向の比率を指定します。

◎ 文字 : 右余白部に ' ' を付加

右余白部を確保するために使用される場合があります。

【注記】

本文中の寸法表記「nX (n は数値)」は細要素幅 X に対する倍数表記です。X の公称サイズは 0.330mm です。例えば 7X なら 7x0.330=2.31mm になります。これは拡大縮小率にともなって変化します。

なお、EAN/UPC シンボルを構成するバー、スペース幅は常に X の倍数とは限りません。JIS X 0507 ではキャラクタ値 1, 2, 7, 8 については位置による例外規定を設けています。→「バーコードに関する参考文献など」



▶ バーコード ROBO4 > JAN8 (EAN8), アドオン

JAN8 (EAN8) は JIS X 0507 (ISO/IEC 15420) に規格化されているものです。JAN と EAN は呼び名が異なるだけで同じものです。

【参考】14 桁コード化？  
国際標準の商品コードである GTIN (Global Trade Item Number) がわが国に導入されても、JAN14 (EAN14) シンボルなるものが新たに採用されるわけではありません。共通商品コードのシンボルとしてはあくまでも JAN13 (EAN13) / JAN8 (EAN8) シンボルが利用されます。またわが国での集合包装 (段ボール) 用シンボルとしては、GTIN 導入後は ITF14 桁 (標準バージョン) が使われます。いずれもバーコード ROBO4 で問題なく作成できます。  
GTIN の詳細については、財団法人流通システム開発センターの Web サイト (<http://www.dsri.jp/>) などを参照してください。



パレット項目について

◎ **データ:**  
本体部のデータ。末尾のチェックデジットを除く 7 桁の数字データを入力して下さい。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。(「文字: 揃え:」が標準フォーマット以外の場合)  
チェックデジットはデータ欄の右隣りに表示されます。

◎ **データ: 出力 (チェックボックス)**  
本体部のデータ文字の出力を制御。

◎ **アドオンデータ:**  
追加シンボルのデータ。2 桁または 5 桁の数字データ

を入力して下さい。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。(「文字: 揃え:」が標準フォーマット以外の場合)  
※ JIS X 0507 おいて追加シンボルを付加できるとして  
いるのは EAN-13, UPC-A, UPC-E です。

◎ **アドオンデータ: 出力 (チェックボックス)**  
追加シンボルのデータ文字の出力を制御。

◎ **文字をアウトライン化 (チェックボックス)**  
データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **背景透過 (チェックボックス)**  
余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **拡大縮小率 (%):**  
バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。  
JIS X 0507 では 80% ~ 200 % とされています。

◎ **シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm): / ベアラバーを除く幅 (mm) × 高さ (mm): / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm): (ポップアップ)**  
3 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ / ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ / バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

◎ **ライブ (チェックボックス)**  
作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **作成 / 再生 (ボタン)**  
バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

◎ **データバーの高さ (mm):**  
標準フォーマット出力時の短いバーの高さ。  
通常は「シンボルの全高 (mm): / ベアラバーを除く高さ (mm): / バーのみの高さ (mm): (ポップアップ)」

の選択とその値で調整して下さい。初期設定値が JIS X 0507 の参考寸法です。

◎ **ガード、センターバーの高さ (mm):**  
標準フォーマット出力時の長いバーの高さ。  
通常は「シンボルの全高 (mm): / ベアラバーを除く高さ (mm): / バーのみの高さ (mm): (ポップアップ)」の選択とその値で調整して下さい。初期設定値が JIS X 0507 の参考寸法です。

◎ **本体とアドオン間の空き (mm):**  
本体部とアドオン (追加) 部間にある空白部の水平長。JIS X 0507 の最小寸法は 7X (初期設定値)、最大寸法 12X です。→注記

◎ **左右余白 (mm):**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。JIS X 0507 の最小寸法は左右とも 7X です (初期設定値)。→注記

◎ **上下余白 (mm):**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。初期設定値が基本寸法です。  
※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

◎ **ベアラバーなし / 枠ベアラバーの幅 (mm): / 上下ベアラバーの幅 (mm): (ポップアップ)**  
ベアラバーを設定するときは、2 通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型 / 上下だけのもので設定するの意。

◎ **黒バー幅の補正值 (1/1000mm):**  
1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

◎ **文字: フォント: (ポップアップ)**  
OCR-B が標準。

◎ **文字: サイズ (pt):**  
データ文字のサイズを指定します。

◎ **文字: サイズ (pt): 標準 (ボタン)**  
データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されま

す。  
◎ **文字: 揃え: (ポップアップ)**  
「標準フォーマット / 左 / 中央 / 右 / べた」から選択して下さい。べたはアドオンデータがあるときに本体データに連結して左揃えにします。

◎ **文字: 垂直位置 (mm):**  
本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

◎ **文字: アドオン垂直位置 (mm):**  
アドオンデータ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

◎ **文字: トラッキング (em/1000):**  
データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。「文字: 揃え:」が標準フォーマット以外のときに有効です。

◎ **文字: 行方向比率 (%):**  
データ文字の行方向の比率を指定します。

◎ **文字: 左右余白部に各 '<' と '>' を付加**  
左右余白部を確保するために使用される場合があります。

【注記】  
本文中の寸法表記「nX (n は数値)」は細要素幅 X に対する倍数表記です。X の公称サイズは 0.330mm です。例えば 7X なら 7x0.330=2.31mm になります。これは拡大縮小率にともなって変化します。  
なお、EAN/UPC シンボルを構成するバー、スペース幅は常に X の倍数とは限りません。JIS X 0507 ではキャラクタ値 1, 2, 7, 8 については位置による例外規定を設けています。→「バーコードに関する参考文献など」

## ▶ バーコード ROBO4 > UPC A, アドオン

UPC A は JIS X 0507 (ISO/IEC 15420) に規格化されているものです。



パレット項目について

### ◎ データ :

本体部のデータ。末尾のチェックデジットを除く 11 桁の数字データを入力して下さい。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。（「文字 : 揃え :」が標準フォーマット以外の場合）

チェックデジットはデータ欄の右隣りに表示されます。

### ◎ データ : 出力 (チェックボックス)

本体部のデータ文字の出力を制御。

### ◎ アドオンデータ :

追加シンボルのデータ。2 桁または 5 桁の数字データを入力して下さい。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。（「文字 : 揃え :」が標準フォーマット以外の場合）

### ◎ アドオンデータ : 出力 (チェックボックス)

追加シンボルのデータ文字の出力を制御。

### ◎ 文字をアウトライン化 (チェックボックス)

データ文字をアウトライン（パス）化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム（パス）の背景を透過（塗り色無しに）するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 拡大縮小率 (%) :

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。  
JIS X 0507 では 80% ～ 200 % とされています。

### ◎ シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm) : / ベアラバーを除く幅 (mm) × 高さ (mm) : / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm) : (ポップアップ)

3 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ / ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ / バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

### ◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 作成 / 再生 (ボタン)

バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

### ◎ データバーの高さ (mm) :

標準フォーマット出力時の短いバーの高さ。  
通常は「シンボルの全高 (mm) : / ベアラバーを除く高さ (mm) : / バーのみの高さ (mm) : (ポップアップ)」の選択とその値で調整して下さい。初期設定値が JIS X 0507 の参考寸法です。

### ◎ ガード、センターバーの高さ (mm) :

標準フォーマット出力時の長いバーの高さ。  
通常は「シンボルの全高 (mm) : / ベアラバーを除く高さ (mm) : / バーのみの高さ (mm) : (ポップアップ)」の選択とその値で調整して下さい。初期設定値が JIS X 0507 の参考寸法です。

### ◎ 本体とアドオン間の空き (mm) :

本体部とアドオン（追加）部間にある空白部の水平長。

JIS X 0507 の最小寸法は 9X（初期設定値）、最大寸法 12X です。 →注記

### ◎ 左右余白 (mm) :

フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。JIS X 0507 の最小寸法は左右とも 9X です（初期設定値）。追加シンボルがある場合の右は 5X です。 →注記

### ◎ 上下余白 (mm) :

フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。初期設定値が基本寸法です。  
※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

### ◎ ベアラバーなし / 枠ベアラバーの幅 (mm) : / 上下ベアラバーの幅 (mm) : (ポップアップ)

ベアラバーを設定するときは、2 通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型 / 上下だけのものと設定するの意。

### ◎ 黒バー幅の補正值 (1/1000mm) :

1/1000 mm（ミクロン）単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

### ◎ 文字 : フォント : (ポップアップ)

OCR-B が標準。

### ◎ 文字 : サイズ (pt) :

データ文字のサイズを指定します。

### ◎ 文字 : サイズ (pt) : 標準 (ボタン)

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

### ◎ 文字 : 揃え : (ポップアップ)

「標準フォーマット / 左 / 中央 / 右 / べた」から選択して下さい。べたはアドオンデータがあるときに本体データに連結して左揃えにします。

### ◎ 文字 : 垂直位置 (mm) :

本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

### ◎ 文字 : アドオン垂直位置 (mm) :

アドオンデータ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

### ◎ 文字 : トラッキング (em/1000) :

データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。「文字 : 揃え :」が標準フォーマット以外の場合に有効です。

### ◎ 文字 : 行方向比率 (%) :

データ文字の行方向の比率を指定します。

### ◎ 文字 : 右余白部に ' ' を付加

右余白部を確保するために使用される場合があります。

### 【注記】

本文中の寸法表記「nX（n は数値）」は細要素幅 X に対する倍数表記です。X の公称サイズは 0.330mm です。例えば 7X なら 7x0.330=2.31mm になります。これは拡大縮小率にともなって変化します。

なお、EAN/UPC シンボルを構成するバー、スペース幅は常に X の倍数とは限りません。JIS X 0507 ではキャラクタ値 1, 2, 7, 8 については位置による例外規定を設けています。 →「バーコードに関する参考文献など」



## ▶ バーコード ROBO4 > UPC E, アドオン

UPC A は JIS X 0507 (ISO/IEC 15420) に規格化されているものです。



パレット項目について

- ◎ **データ：**  
本体部のデータ。末尾のチェックデジットを除く 6 桁の数字データを入力して下さい。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。（「文字：揃え：」が標準フォーマット以外の場合）  
チェックデジットはデータ欄の右隣りに表示されます。

- ◎ **データ：出力（チェックボックス）**  
本体部のデータ文字の出力を制御。

- ◎ **アドオンデータ：**  
追加シボルのデータ。2 桁または 5 桁の数字データを入力して下さい。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。（「文字：揃え：」が標準フォーマット以外の場合）

- ◎ **アドオンデータ：出力（チェックボックス）**  
追加シボルのデータ文字の出力を制御。

- ◎ **文字をアウトライン化（チェックボックス）**  
データ文字をアウトライン（パス）化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

- ◎ **背景透過（チェックボックス）**  
余白を確保するためのフレーム（パス）の背景を透過（塗り色無しに）するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

- ◎ **拡大縮小率（%）：**  
バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。  
JIS X 0507 では 80% ～ 200 % とされています。

- ◎ **シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm)：／ベアラバーを除く幅 (mm) × 高さ (mm)：／バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm)：（ポップアップ）**  
3 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ／ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ／バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

- ◎ **ライブ（チェックボックス）**  
作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

- ◎ **作成／再生（ボタン）**  
バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編

- ◎ **データバーの高さ (mm)：**  
標準フォーマット出力時の短いバーの高さ。  
通常は「シンボルの全高 (mm)：／ベアラバーを除く高さ (mm)：／バーのみの高さ (mm)：（ポップアップ）」の選択とその値で調整して下さい。初期設定値が JIS X 0507 の参考寸法です。

- ◎ **ガード、センターバーの高さ (mm)：**  
標準フォーマット出力時の長いバーの高さ。  
通常は「シンボルの全高 (mm)：／ベアラバーを除く高さ (mm)：／バーのみの高さ (mm)：（ポップアップ）」の選択とその値で調整して下さい。初期設定値が JIS X

0507 の参考寸法です。

- ◎ **本体とアドオン間の空き (mm)：**  
本体部とアドオン（追加）部間にある空白部の水平長。  
JIS X 0507 の最小寸法は 7X（初期設定値）、最大寸法 12X です。→注記

- ◎ **左右余白 (mm)：**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。JIS X 0507 の最小寸法は左 9X、右 7X です（初期設定値）。追加シンボルがある場合の右は 5X です。→注記

- ◎ **上下余白 (mm)：**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。初期設定値が基本寸法です。  
※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

- ◎ **ベアラバーなし／枠ベアラバーの幅 (mm)：／上下ベアラバーの幅 (mm)：（ポップアップ）**  
ベアラバーを設定するときは、2 通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型／上下だけのもので設定するの意。

- ◎ **黒バー幅の補正值 (1/1000mm)：**  
1/1000 mm（ミクロン）単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

- ◎ **文字：フォント：（ポップアップ）**  
OCR-B が標準。

- ◎ **文字：サイズ (pt)：**  
データ文字のサイズを指定します。

- ◎ **文字：サイズ (pt)：標準（ボタン）**  
データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

- ◎ **文字：揃え：（ポップアップ）**  
「標準フォーマット／左／中央／右／べた」から選択して下さい。べたはアドオンデータがあるときに本体データに連結して左揃えにします。

- ◎ **文字：垂直位置 (mm)：**  
本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

- ◎ **文字：アドオン垂直位置 (mm)：**  
アドオンデータ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

- ◎ **文字：トラッキング (em/1000)：**  
データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。「文字：揃え：」が標準フォーマット以外の場合に有効です。

- ◎ **文字：行方向比率（%）：**  
データ文字の行方向の比率を指定します。

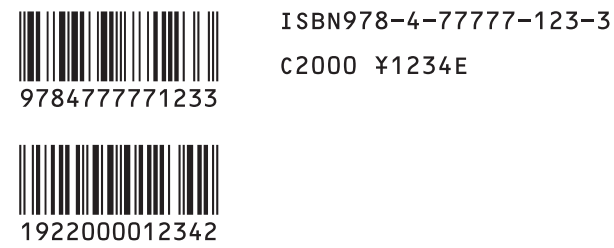
- ◎ **文字：右余白部に ' ' を付加**  
右余白部を確保するために使用される場合があります。

【注記】  
本文中の寸法表記「nX（n は数値）」は細要素幅 X に対する倍数表記です。X の公称サイズは 0.330mm です。例えば 7X なら 7×0.330=2.31mm になります。これは拡大縮小率にともなって変化します。  
なお、EAN/UPC シンボルを構成するバー、スペース幅は常に X の倍数とは限りません。JIS X 0507 ではキャラクタ値 1, 2, 7, 8 については位置による例外規定を設けています。→「バーコードに関する参考文献など」

▶ バーコード ROB04 > 書籍 JAN, 日本図書コード

日本図書コードは、ISBN コードに分類コードおよび価格コードを合わせたものです。ISBN (International Standard Book Number) は全世界共通の書籍を特定するナンバーです。書籍 JAN バーコード・シンボルは、日本図書コードを 2 段の JAN13 (EAN13) ※に割り当てて、POS システムでの在庫、流通管理に利用できるようにしたものです。1 段目は ISBN コードを、2 段目はフラグコードに分類コードと価格コードの組み合わせをシンボル化したものです。

※ JAN13 (EAN13) は JIS X 0507 に規格化されているものです。JAN と EAN は呼び名が異なるだけで同じものです。



パレット項目について

- ◎ ISBN コード :  
ISBN コードのデータ。末尾のチェックデジットを除く 9 桁の数字データを入力して下さい。13 桁構成の場合も先頭の 3 桁のフラグコードは「JAN コード 1 :」のものが入りますので続く 9 桁を入力してください。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力されます。  
チェックデジットはコード入力欄の右隣りに表示されます。

- ◎ ISBN コード : 出力 (チェックボックス)  
ISBN コードのデータ文字の出力を制御。

- ◎ 分類価格コード :  
分類価格コードのデータ。価格コードの前に ¥ を入力してください。CS5 以前用の場合は、フォントによっては ¥ の代わりに 'Y' を代用できます。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力されます。

- ◎ 分類価格コード : 出力 (チェックボックス)

分類価格コードのデータ文字の出力を制御。

- ◎ JAN コード 1 :  
JAN 1 段目の 3 桁のフラグコードだけを指定して下さい。続く 10 桁分は ISBN コードのものが表示されます。

- ◎ JAN コード 1 : 出力 (チェックボックス)  
JAN 1 段目のデータ文字の出力を制御。

- ◎ JAN コード 2 :  
JAN 2 段目の 3 桁のフラグコードだけを指定して下さい。続く 10 桁分は分類価格コードの数字部がチェックデジットと合わせて表示されます。

- ◎ JAN コード 2 : 出力 (チェックボックス)  
JAN 2 段目のデータ文字の出力を制御。

- ◎ 文字をアウトライン化 (チェックボックス)  
データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

- ◎ 背景透過 (チェックボックス)  
余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

- ◎ 拡大縮小率 (%) :  
バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

- ◎ シンボル全幅 (mm) × 全高 (mm) :  
余白を確保するためのフレームの全幅 × 全高。

- ◎ ライブ (チェックボックス)  
作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

- ◎ 作成／再生 (ボタン)  
バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編

- ◎ バーの高さ (mm) :  
初期設定値が基本寸法です。

- ◎ 上下シンボル間の空き (mm) :  
JAN 1 段目のバー下端から 2 段目のバー上端までの距離。初期設定値が基本寸法です。

- ◎ 左右余白 (mm) :  
フレームとシンボル間の左右にある空白部の水平長。JIS X 0507 の最小寸法は左 11X、右 7X です (初期設定値)。 →注記

- ◎ 上下余白 (mm) :  
フレームとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。初期設定値が基本寸法です。

- ◎ 黒バー幅の補正值 (1/1000mm) :  
1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。 →チュートリアル編

- ◎ ISBN, 分類価格文字 : フォント : (ポップアップ)  
ISBN, 分類価格文字のフォントを指定します。

- ◎ ISBN, 分類価格文字 : サイズ (pt) :  
コード文字のサイズを指定します。

- ◎ ISBN, 分類価格文字 : サイズ (pt) : 標準 (ボタン)  
コード文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

- ◎ ISBN, 分類価格文字 : 揃え : (ポップアップ)  
「標準フォーマット／左／中央／右／べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。  
※ ISBN13 桁構成では初期設定は左揃えになります。

- ◎ ISBN, 分類価格文字 : 2 段表記 : (チェックボックス)  
ISBN コード部と分類価格コード部を 2 段に分割して表記するかどうかを制御します。オンのときには「行送り (%) :」 (フォントサイズ比) も指定できます。

- ◎ ISBN, 分類価格文字 : 水平垂直位置 (mm) :  
コード文字の水平垂直位置を指定します。JAN シンボルのためのフレームの左上を基準とし、右／上方向がそれぞれプラス値。

- ◎ ISBN, 分類価格文字 : トラッキング (em/1000) :  
コード文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定

します。

- ◎ ISBN, 分類価格文字 : 行方向比率 (%) :  
コード文字の行方向の比率を指定します。

- ◎ JAN 文字 : フォント : (ポップアップ)  
JAN 文字のフォントを指定します。

- ◎ JAN 文字 : サイズ (pt) :  
データ文字のサイズを指定します。

- ◎ JAN 文字 : サイズ (pt) : 標準 (ボタン)  
データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

- ◎ JAN 文字 : 揃え : (ポップアップ)  
「標準フォーマット／左／中央／右／べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。

- ◎ JAN 文字 : 垂直位置 (mm) :  
データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

- ◎ JAN 文字 : トラッキング (em/1000) :  
データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。「文字 : 揃え :」が標準フォーマット以外のときに有効です。

- ◎ JAN 文字 : 行方向比率 (%) :  
コード文字の行方向の比率を指定します。

【注記】  
本文中の寸法表記「nX (n は数値)」は細要素幅 X に対する倍数表記です。X の公称サイズは 0.330mm です。例えば 7X なら 7×0.330=2.31mm になります。これは拡大縮小率にともなって変化します。  
なお、EAN/UPC シンボルを構成するバー、スペース幅は常に X の倍数とは限りません。JIS X 0507 ではキャラクタ値 1, 2, 7, 8 については位置による例外規定を設けています。→「バーコードに関する参考文献など」

▶ バーコード ROB04 > 共通雑誌コード

共通雑誌コードは JAN13（EAN13）に 5 桁のアドオンコードを追加したシンボルです。



パレット項目について

◎ **データ：**  
データの入力方法にはつぎの 2 通りがあります。

- (1) 最上段の 2 箇所の欄に JAN13 + アドオンデータを直接入力する。
- (2) 「フラグ：」～「本体価格：」欄に要素データを逐一入力する。

どちらの方法をとっても互いの欄に入力値が反映されます。(1) 場合は、左欄に JAN13 データの末尾のチェックデジットを除いた 12 桁のデータを、右欄に 5 桁のアドオンデータを入力してください。JAN13 部のチェックデジットは JAN12 桁入力部の右隣りに表示されます。

◎ **雑誌コード文字の併記：(チェックボックス他)**  
雑誌コード文字の出力を制御し、オンの場合はその下で指定する形式でコード文字を出力できます。  
全部で 6 つのパートから成っていますが、左から順に「雑誌」の文字に続いて 5 桁の雑誌コード、区切りキャラクタ、号数、区切りキャラクタ、発行日等の入力欄です。雑誌コードはデータ欄のものが入ります。最後の発行日等の入力欄が空欄の場合はその前のセパレータは出力されません。

◎ **文字をアウトライン化 (チェックボックス)**  
データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **背景透過 (チェックボックス)**  
余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **拡大縮小率 (%)：**  
バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

◎ **余白を含めた幅 (mm) × 高さ (mm)：／バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm)：(ポップアップ)**  
2 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、余白を確保するためのフレームの幅と高さ／バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

◎ **ライブ (チェックボックス)**  
作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **作成／再生 (ボタン)**  
バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編

◎ **バーの高さ (mm)：**  
初期設定値が基本寸法です。

◎ **本体とアドオン間の空き (mm)：**  
本体部とアドオン (追加) 部間にある空白部の水平長。JIS X 0507 の最小寸法は 7X (初期設定値)、最大寸法 12X です。→注記

◎ **左右余白 (mm)：**  
フレームとシンボル間の左右にある空白部の水平長。初期設定値が基本寸法です。

◎ **上下余白 (mm)：**  
フレームとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。初期設定値が基本寸法です。

◎ **黒バー幅の補正值 (1/1000mm)：**  
1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

◎ **JAN 文字：フォント：(ポップアップ)**  
データ文字のフォントを指定します。

◎ **JAN 文字：サイズ (pt)：**  
データ文字のサイズを指定します。

◎ **JAN 文字：行送り (%)：**  
データ文字の JAN13 桁部とアドオン 5 桁部との間隔をフォントサイズに対する比率で指定してください。

◎ **JAN 文字：水平垂直位置 (mm)：**  
データ文字の水平垂直位置を指定します。シンボルの右上を基準とし、右／上方向がそれぞれプラス値。

◎ **JAN 文字：水平垂直位置 (mm)：標準 (ボタン)**  
データ文字の標準的な位置として、フォントとシンボルとの空きをもとにした計算値が水平垂直位置：欄に入力されます。

◎ **JAN 文字：トラッキング (em/1000)：**  
データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。

◎ **JAN 文字：行方向比率 (%)：**  
データ文字の行方向の比率を指定します。

◎ **雑誌コード文字：フォント：(ポップアップ)**  
雑誌コード文字のフォントを指定します。

◎ **雑誌コード文字：サイズ (pt)：**  
雑誌コード文字のサイズを指定します。

◎ **雑誌コード文字：揃え：(ポップアップ)**  
「左／中央／右」から選択して下さい。

◎ **雑誌コード文字：水平垂直位置 (mm)：**  
雑誌コード文字の水平垂直位置を指定します。シンボルの右上を基準とし、右／上方向がそれぞれプラス値。

◎ **雑誌コード文字：水平垂直位置 (mm)：標準 (ボタン)**  
雑誌コード文字の標準的な位置として、フォントとシンボルとの空きをもとにした計算値が水平垂直位置：欄に入力されます。

◎ **雑誌コード文字：トラッキング (em/1000)：**

雑誌コード文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。

◎ **雑誌コード文字：行方向比率 (%)：**  
雑誌コード文字の行方向の比率を指定します。

【注記】  
本文中の寸法表記「nX (n は数値)」は細要素幅 X に対する倍数表記です。X の公称サイズは 0.330mm です。例えば 7X なら 7x0.330=2.31mm になります。これは拡大縮小率にともなって変化します。  
なお、EAN/UPC シンボルを構成するバー、スペース幅は常に X の倍数とは限りません。JIS X 0507 では数値 1, 2, 7, 8 については読み取りの信頼性を高めるために例外規定を設けています。→「バーコードに関する参考文献など」



## ▶ バーコード ROBO4 > コーダバー (NW-7)

コーダバー (NW-7) は、宅配伝票で荷物の追跡管理用として広く使われていますが、他にも郵便書留、図書館の貸出管理、衣料品管理、会員カードなどでも使われています。JIS X 0506 で規格化されています。



パレット項目について

◎ **データ:**  
データ入力時には以下の付帯オプションおよび「チェックデジット・オプション:」にもご注意下さい。チェックデジットについては「チェックデジット・オプション」の指定により、データ入力部の隣接枠内に表示されます。

◎ **データ: 出力 (チェックボックス)**  
データ文字の出力を制御。

◎ **データ: 符号化除外文字:**  
データ欄に入力する文字のうちバーコードシンボル化から除く文字を指定します。ただし、符号化除外文字もデータ文字としては出力されます。

◎ **データ: スタートコード: (ポップアップ)**  
スタートコードを選択します。「データに含む」を選択した場合は、データ欄に入力した本体データのうち最初のキャラクタがスタートコードと見なされます。

◎ **データ: ストップコード: (ポップアップ)**  
ストップコードを選択します。「データに含む」を選択した場合は、データ欄に入力した本体データのうち最後のキャラクタがストップコードと見なされます。

◎ **データ: スタート、ストップコード文字の出力: (チェックボックス)**  
スタート、ストップコード文字を本体データ文字とともに出力するかどうかを制御します。

◎ **チェックデジット・オプション: (ラジオボタン他)**  
(1) 処理しない  
(2) チェック／訂正  
(3) 自動付加  
の3通りから選択できます。  
チェックデジットを必要としないか、データにチェックデジットが付加済みで検証も不要な場合には(1)を選択してください。  
(2) ではデータ本体部として入力された最後のキャラクタ(ストップコードがあれば除外)をチェックデジットと見なしてチェック計算がおこなわれ、もし間違っていれば訂正したものと差し替えてシンボル化されます。  
(3) では本体部として入力されたデータにチェックデジットが計算付加されてシンボル化されます。

なお、これらの場合に使用されるチェックデジットの算出方法は「種類:」で指定されたものが使用されます。  
チェックデジットについては「バーコード ROBO4 > チェックデジットについての補足」もご覧ください。

◎ **文字をアウトライン化 (チェックボックス)**  
データ文字をアウトライン(パス)化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **背景透過 (チェックボックス)**  
余白を確保するためのフレーム(パス)の背景を透過(塗り色無しに)するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **拡大縮小率 (%):**  
バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

◎ **シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm): /ベアラバーを除く幅 (mm) × 高さ (mm): /バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm): (ポップアップ)**  
3通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ/ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ/バーのみの幅と高さで表示するの意。

高さ表示欄は入力が可能です。

◎ **ライブ (チェックボックス)**  
作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **作成／再生 (ボタン)**  
バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編

◎ **細エLEMENTの幅 (mm):**  
JIS X 0506 では特に定められていませんが、通常初期設定値のままにしておいて下さい。

◎ **太／細エLEMENT比:**  
JIS X 0506 では2.0 ~ 3.0の範囲とされています。

◎ **バーの高さ (mm):**  
JIS X 0506 では特に定められていません。

◎ **キャラクタ間ギャップ (mm):**  
JIS X 0506 では白の細エLEMENT幅以上とされています。

◎ **左右余白 (mm):**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。  
JIS X 0506 ではそれぞれスタートキャラクタおよびストップキャラクタの幅以上とされていますから、細エLEMENTの幅をX mm、太／細エLEMENT比をNとするとき、 $(4+3N)X$  mm 以上となります。例えばX=0.254, N=2.5の場合は、 $(4+3*2.5)*0.254=2.921$  mm 以上となります。

◎ **上下余白 (mm):**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。  
JIS X 0506 では特に定められていませんが、通常初期設定値のままにしておいて下さい。  
※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が0 mmのときは完全にオーバーラップするように出力されます。

◎ **ベアラバーなし／枠ベアラバーの幅 (mm): /上下ベアラバーの幅 (mm): (ポップアップ)**

ベアラバーを設定するときは、2通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型／上下だけのもので設定するの意。

◎ **黒バー幅の補正值 (1/1000mm):**  
1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

◎ **文字: フォント: (ポップアップ)**  
データ文字のフォントを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

◎ **文字: サイズ (pt):**  
データ文字のサイズを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

◎ **文字: サイズ (pt): 標準 (ボタン)**  
データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

◎ **文字: 揃え: (ポップアップ)**  
「標準フォーマット／左／中央／右／べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。

◎ **文字: 垂直位置 (mm):**  
本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

◎ **文字: トラッキング (em/1000):**  
データ文字のトラッキング値をem/1000単位で指定します。「文字: 揃え:」が標準フォーマット以外のときに有効です。

◎ **文字: 行方向比率 (%):**  
データ文字の行方向の比率を指定します。

## ▶ バーコード ROBO4 > CODE39 標準, フルセット

CODE39 は、誤読率が低いことや英文字も使用可能なことから産業界における EDI (Electronic Data Interchange) 用途として使用されています。JIS X 0503 で規格化されています。



パレット項目について

◎ **拡張モード (フル ASCII) :** (チェックボックス)  
CODE39 の符号化をフル ASCII 文字対応に拡張させるときにチェックします。

◎ **データ :**  
データ入力時には以下の付帯オプションおよび「チェックデジット・オプション :」にもご注意下さい。チェックデジットについては「チェックデジット・オプション」の指定により、データ入力部の隣接枠内に表示されます。

◎ **データ : 出力 (チェックボックス)**  
データ文字の出力を制御。

◎ **データ : 符号化除外文字 :**  
データ欄に入力する文字のうちバーコードシンボル化から除く文字を指定します。ただし、符号化除外文字もデータ文字としては出力されます。

◎ **データ : スタート、ストップコードはデータに含む : ((チェックボックス))**  
チェックした場合は、データ欄に入力した本体データのうち最初のキャラクタと最後のキャラクタ「\*」がスター

ト、ストップコードと見なされます。

◎ **データ : スタート、ストップコード文字の出力 : (チェックボックス)**  
スタート、ストップコード文字を本体データ文字とともに出力するかどうかを制御します。

◎ **チェックデジット・オプション : (ラジオボタン他)**  
(1) 処理しない  
(2) チェック／訂正  
(3) 自動付加  
の3通りから選択できます。  
チェックデジットを必要としないか、データにチェックデジットが付加済みで検証も不要な場合には (1) を選択してください。

(2) ではデータ本体部として入力された最後のキャラクタ (ストップコードがあれば除外) をチェックデジットと見なしてチェック計算がおこなわれ、もし間違っていれば訂正したものと差し替えてシンボル化されます。  
(3) では本体部として入力されたデータにチェックデジットが計算付加されてシンボル化されます。

なお、これらの場合に使用されるチェックデジットの算出にはモジュラス 43 が使用されます。  
チェックデジットについては「バーコード ROBO4 > チェックデジットについての補足」もご覧ください。

◎ **文字をアウトライン化 (チェックボックス)**  
データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **背景透過 (チェックボックス)**  
余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **拡大縮小率 (%) :**  
バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

◎ **シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm) : / ベアラバーを除く幅 (mm) × 高さ (mm) : / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm) : (ポップアップ)**  
3通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シン

ボル全体の幅と高さ／ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ／バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

◎ **ライブ (チェックボックス)**  
作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **作成／再生 (ボタン)**  
バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編

◎ **細エレメントの幅 (mm) :**  
JIS X 0503 では特に定められていませんが、通常初期設定値のままにしておいて下さい。

◎ **太／細エレメント比 :**  
JIS X 0503 では 2.0 ～ 3.0 の範囲とされています。

◎ **バーの高さ (mm) :**  
JIS X 0503 では最小バー高さとして、手動で読み取る場合には 5mm または左右余白 (クワイエットゾーン) を除くシンボル幅の 15% のいずれか大きい方とすることが推奨されています。

◎ **キャラクタ間ギャップ (mm) :**  
JIS X 0503 では細エレメント幅 (X) を最小値とし、最大値は  $X < 0.287 \text{ mm}$  の場合は、 $5.3X$ 、 $X \geq 0.287 \text{ mm}$  の場合は、 $1.52 \text{ mm}$  または  $3X \text{ mm}$  のいずれか大きい方とされています。

◎ **左右余白 (mm) :**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。  
JIS X 0503 では、細エレメント幅 (X) に対し  $10X$  以上と定められています。

◎ **上下余白 (mm) :**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。  
JIS X 0503 では特に定められていませんが、通常初期設定値のままにしておいて下さい。  
※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするよう出力されます。

◎ **ベアラバーなし／枠ベアラバーの幅 (mm) : / 上下ベアラバーの幅 (mm) : (ポップアップ)**  
ベアラバーを設定するときは、2通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型／上下だけのもので設定するの意。

◎ **黒バー幅の補正值 (1/1000mm) :**  
1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

◎ **文字 : フォント : (ポップアップ)**  
データ文字のフォントを指定します。JIS X 0503 では特に定められていません。

◎ **文字 : サイズ (pt) :**  
データ文字のサイズを指定します。JIS X 0503 では特に定められていません。

◎ **文字 : サイズ (pt) : 標準 (ボタン)**  
データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

◎ **文字 : 揃え : (ポップアップ)**  
「標準フォーマット／左／中央／右／べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。

◎ **文字 : 垂直位置 (mm) :**  
本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

◎ **文字 : トラッキング (em/1000) :**  
データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。「文字 : 揃え :」が標準フォーマット以外のときに有効です。

◎ **文字 : 行方向比率 (%) :**  
データ文字の行方向の比率を指定します。



▶ バーコード ROBO4 > GS1-128 (UCC/EAN128), CODE128

GS1-128 (UCC/EAN128) は CODE128 を応用した (アプリケーション) バーコード・シンボルで、製造年月日や梱包番号、品質保証日、発注番号などのデータを表現しかつ全世界共通利用できるように制定されたものです。EAN128 シンボルには特殊キャラクタも含まれますが、バーコード ROBO4 では可読コードデータを入力するだけでシンボル化することができます。ベースとなる CODE128 は JIS X 0504 (コード 128) で規格化されています。



GS1-128

パレット項目について

- ◎ **GS1-128 (UCC/EAN128) (チェックボックス)**  
EAN128 アプリケーションモードで使用する場合にチェックしてください。
- ◎ **データ：自動最適符号化 (チェックボックス)**  
入力データを解析してスタートコードやセットコード、シフトコードなどの機能コードを自動挿入してシンボル化します。通常チェックしておいてください。
- ◎ **データ：**  
GS1-128 (UCC/EAN128) の場合は、一般にアプリケーション識別子 AI の (01) に続けて GTIN\* の 14 桁の数字から入力します。末尾の 14 桁目はチェックデジットですので、省略したり誤った数字が指定されても追加または正しいもので出力されます (「自動最適符号化」チェック時)。通常この後にも別の AI 部が続きます。各アプリケーション識別子 AI は ( ) などで囲むか、データ領域との間にスペースを入れてください。AI の区切りキャラクタは符号化されません。  
データ入力時には先の 3 つのオプションや符号化除外

- 文字にもご注意ください。  
CODE128 としてのチェックデジットは、計算値がそのままデータ入力部の右隣りまたは右下に表示されます。  
\*GTIN=Global Trade Item Number (国際取引商品コード)
- ◎ **データ：出力 (チェックボックス)**  
データ文字の出力を制御。
- ◎ **データ：符号化除外文字：**  
データ欄に入力する文字のうちバーコードシンボル化から除く文字を指定します。ただし、符号化除外文字もデータ文字としては出力されます。
- ◎ **データ：入力用機能コード：(ポップアップ)**  
「データ：自動最適符号化」や「データ：可変長データ後の <FNC1> を自動挿入」がオフの場合に有効です。スタートコードやセットコード、シフトコード、ファンクションコードを入力するには、「データ：」欄中の目的の位置にカーソルを置き、このポップアップからコードを選択してください。同じ書式であれば手入力しても構いません。
- ◎ **データ：入力用制御コード：(ポップアップ)**  
「GS1-128 (UCC/EAN128)」がオフの場合に有効です。各種制御コードを入力するには、「データ：」欄中の目的の位置にカーソルを置き、このポップアップからコードを選択してください。同じ書式であれば手入力しても構いません。
- ◎ **文字をアウトライン化 (チェックボックス)**  
データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編
- ◎ **背景透過 (チェックボックス)**  
余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編
- ◎ **拡大縮小率 (%)：**  
バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。
- ◎ **シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm)：／ベアラバーを**

- 除く幅 (mm) × 高さ (mm)：／バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm)：(ポップアップ)**  
3 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ／ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ／バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。
- ◎ **ライブ (チェックボックス)**  
作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編
- ◎ **作成／再生 (ボタン)**  
バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編
- ◎ **最小モジュール幅 (mm)：**  
JIS X 0504 では特に定められていませんが、通常初期設定値のままにしておいて下さい。
- ◎ **バーの高さ (mm)：**  
JIS X 0504 では最小バー高さとして、手動で読み取る場合には 5mm またはシンボル幅の 15% のいずれか大きい方とすることが推奨されています。
- ◎ **左右余白 (mm)：**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。  
JIS X 0504 では、最小モジュール幅 (X) に対し 10X 以上と定められています。
- ◎ **上下余白 (mm)：**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。  
JIS X 0504 (CODE128) では特に定められていませんが、通常初期設定値のままにしておいて下さい。  
※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。
- ◎ **ベアラバーなし／枠ベアラバーの幅 (mm)：／上下ベアラバーの幅 (mm)：(ポップアップ)**  
ベアラバーを設定するときは、2 通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型／上下だけのもので設定するの意。

- ◎ **黒バー幅の補正值 (1/1000mm)：**  
1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編
- ◎ **文字：フォント：(ポップアップ)**  
データ文字のフォントを指定します。JIS X 0504 (CODE128) では特に定められていません。
- ◎ **文字：サイズ (pt)：**  
データ文字のサイズを指定します。JIS X 0504 (CODE128) では特に定められていません。
- ◎ **文字：サイズ (pt)：標準 (ボタン)**  
データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。
- ◎ **文字：揃え：(ポップアップ)**  
「標準フォーマット／左／中央／右／べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。
- ◎ **文字：垂直位置 (mm)：**  
本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。
- ◎ **文字：トラッキング (em/1000)：**  
データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。
- ◎ **文字：行方向比率 (%)：**  
データ文字の行方向の比率を指定します。

## ▶ バーコード ROBO4 > CODE11

CODE11 は、INTERMEC TECHNOLOGIES INC が開発した高密度のバーコード・シンボルです。



(2) ではデータ本体部として入力された最後のキャラクタ (ストップコードがあれば除外) をチェックデジットと見なしてチェック計算がおこなわれ、もし間違っていれば訂正したものと差し替えてシンボル化されます。

(3) では本体部として入力されたデータにチェックデジットが計算付加されてシンボル化されます。

なお、これらの場合に使用されるチェックデジットの算出方法は「種類 :」で指定されたものが使用されます。

チェックデジットについては「バーコード ROBO4 > チェックデジットについての補足」もご覧ください。

### ◎ 文字をアウトライン化 (チェックボックス)

データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 拡大縮小率 (%)

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

### ◎ シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm): /ベアラバーを除く幅 (mm) × 高さ (mm): /バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm): (ポップアップ)

3 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ /ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ /バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

### ◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 作成 / 再生 (ボタン)

バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

### ◎ 細エレメントの幅 (mm):

最小値は 0.191 mm です。

### ◎ 太 / 細エレメント比 1:

太エレメントが 1 本の場合のエレメント比の値で、通常 3.5 です。

### ◎ 太 / 細エレメント比 2:

太エレメントが 2 本の場合のエレメント比の値で、通常 2.24 です。

### ◎ バーの高さ (mm):

黒エレメントの高さです。

### ◎ キャラクタ間ギャップ (mm):

細エレメント幅以上です。

### ◎ 左右余白 (mm):

フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。

細エレメント幅 (X) に対し 10X mm または 2.54 mm のいずれか大きい方以上です。

### ◎ 上下余白 (mm):

フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。通常初期設定値のままにしておいて下さい。

※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

### ◎ ベアラバーなし / 枠ベアラバーの幅 (mm): / 上下ベアラバーの幅 (mm): (ポップアップ)

ベアラバーを設定するときは、2 通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型 / 上下だけのもので設定するの意。

### ◎ 黒バー幅の補正值 (1/1000mm):

1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

### ◎ 文字: フォント: (ポップアップ)

データ文字のフォントを指定します。

### ◎ 文字: サイズ (pt):

データ文字のサイズを指定します。

### ◎ 文字: サイズ (pt): 標準 (ボタン)

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

### ◎ 文字: 揃え: (ポップアップ)

「標準フォーマット / 左 / 中央 / 右 / べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。

### ◎ 文字: 垂直位置 (mm):

本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

### ◎ 文字: トラッキング (em/1000):

データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。

### ◎ 文字: 行方向比率 (%)

データ文字の行方向の比率を指定します。

パレット項目について

### ◎ データ:

データ入力時には以下の付帯オプションおよび「チェックデジット・オプション:」にもご注意下さい。チェックデジットについては「チェックデジット・オプション」の指定により、データ入力部の隣接枠内に表示されます。

### ◎ データ: 出力 (チェックボックス)

データ文字の出力を制御。

### ◎ データ: 符号化除外文字:

数字とマイナス記号以外は符号化から除外されます。符号化除外文字もデータ文字としては出力されます。

### ◎ チェックデジット・オプション: (ラジオボタン他)

- (1) 処理しない
- (2) チェック / 訂正
- (3) 自動付加

の 3 通りから選択できます。

チェックデジットを必要としないか、データにチェックデジットが付加済みで検証も不要な場合には (1) を選択してください。

▶ バーコード ROBO4 > CODE93

CODE93 は、INTERMEC TECHNOLOGIES INC が開発したバーコード・シンボルです。



パレット項目について

◎ **データ:**  
データ入力時には符号化除外文字にもご注意ください。チェックデジットとしてモジュラス 47 によるダブルのチェックキャラクタが付加されます。データ入力部の右下枠内に表示されます。チェックデジットについては「バーコード ROBO4 > チェックデジットについての補足」もご覧ください。

◎ **データ: 出力 (チェックボックス):**  
データ文字の出力を制御。

◎ **データ: 符号化除外文字:**  
データ欄に入力する文字のうちバーコードシンボル化から除く文字を指定します。ただし、符号化除外文字もデータ文字としては出力されます。

◎ **データ: 入力用制御コード: (ポップアップ)**  
各種制御コードを入力するには、「データ:」欄中の目的の位置にカーソルを置き、このポップアップからコードを選択してください。同じ書式であれば手入力しても構いません。

◎ **文字をアウトライン化 (チェックボックス)**  
データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **背景透過 (チェックボックス)**  
余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **拡大縮小率 (%):**  
バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

◎ **シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm): / ベアラバーを除く幅 (mm) × 高さ (mm): / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm): (ポップアップ)**  
3通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ / ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ / バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

◎ **ライブ (チェックボックス)**  
作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **作成 / 再生 (ボタン)**  
バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

◎ **細エレメント幅 (mm):**  
最小値は 0.191 mm です。

◎ **バーの高さ (mm):**  
黒エレメントの高さです。

◎ **左右余白 (mm):**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある

空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。  
細エレメント幅 (X) に対し 10X mm または 2.54 mm のいずれか大きい方以上とされています。

◎ **上下余白 (mm):**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。通常初期設定値のままにしておいて下さい。  
※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

◎ **ベアラバーなし / 枠ベアラバーの幅 (mm): / 上下ベアラバーの幅 (mm): (ポップアップ)**  
ベアラバーを設定するときは、2通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型 / 上下だけのもの で設定するの意。

◎ **黒バー幅の補正値 (1/1000mm):**  
1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

◎ **文字: フォント: (ポップアップ)**  
データ文字のフォントを指定します。

◎ **文字: サイズ (pt):**  
データ文字のサイズを指定します。

◎ **文字: サイズ (pt): 標準 (ボタン)**  
データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

◎ **文字: 揃え: (ポップアップ)**  
「標準フォーマット / 左 / 中央 / 右 / べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。

◎ **文字: 垂直位置 (mm):**  
本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

◎ **文字: トラッキング (em/1000):**  
データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定

します。  
◎ **文字: 行方向比率 (%):**  
データ文字の行方向の比率を指定します。



## ▶ バーコード ROBO4 > 物流商品コード (ITF), アドオン

ITF (Interleaved Two of Five) は物流商品コードの呼び名で集合包装商品の内容識別に用いられているコードです。「物流識別コード 1 桁 + JAN コード」の標準バージョンと「ゼロ + 物流識別コード 2 桁 + JAN 標準バージョン」の拡張バージョンがありますが、これらに付記する形で用いられる重量などを表示するアドオンバージョンがあります。

JIS X 0502 で規格化されていますが、シンボルの規格としては JIS X 0505 と同じものです。また、JIS X 0502 自体は 2017 年 10 月現在でも「有効」として残っていますが、2010 年以降 ITF16 の使用は禁止されました。



物流商品コード (ITF) 標準 <14 桁> バージョン



物流商品コード (ITF) アドオン <5 桁> バージョン

パレット項目について

### ◎ データ :

末尾のチェックデジットを除く 13 桁（標準バージョン）、15 桁（拡張バージョン）または 5 桁（アドオンバージョン）の数字データを入力して下さい。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。（「文字 : 揃え :」が標準フォーマット以外の場合）

チェックデジットはモジュラス 10 で算出されデータ欄の右隣りに表示されます。

### ◎ データ : 出力 (チェックボックス)

本体部のデータ文字の出力を制御。

### ◎ 文字をアウトライン化 (チェックボックス)

データ文字をアウトライン（パス）化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム（パス）の背景を透過（塗り色無しに）するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 拡大縮小率 (%) :

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

JIS X 502 では、仕上がりサイズで 25% ~ 120 % の範囲で拡大縮小ができるが、段ボール印刷の場合は 60% 以上が望ましいとされています。

### ◎ シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm) : / ベアラバーを除く幅 (mm) × 高さ (mm) : / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm) : (ポップアップ)

3 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ / ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ / バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

### ◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 作成 / 再生 (ボタン)

バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

### ◎ 細エレメント幅 (mm) :

JIS X 502 では、倍率 100% で 1.016 mm とされています。

### ◎ 太 / 細エレメント比 :

JIS X 502 では、比率 2.5 とされています。

### ◎ データバーの高さ (mm) :

JIS X 502 では、31.8 mm とされています。

### ◎ 左右余白 (mm) :

フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。

JIS X 502 では、細エレメント幅 (X) に対し 10X が最小値と定められています。

### ◎ 上下余白 (mm) :

フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。

JIS X 502 では、どちらも 0 mm です。

※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

### ◎ ベアラバーなし / 枠ベアラバーの幅 (mm) : / 上下ベアラバーの幅 (mm) : (ポップアップ)

ベアラバーを設定するときは、2 通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型 / 上下だけのもので設定するの意。

### ◎ 黒バー幅の補正值 (1/1000mm) :

1/1000 mm（ミクロン）単位で指定して下さい。

→チュートリアル編

### ◎ 文字 : フォント : (ポップアップ)

OCR-B が標準。

### ◎ 文字 : サイズ (pt) :

データ文字のサイズを指定します。

### ◎ 文字 : サイズ (pt) : 標準 (ボタン)

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

### ◎ 文字 : 揃え : (ポップアップ)

「標準フォーマット / 左 / 中央 / 右 / べた」から選択して下さい。べたはアドオンデータがあるときに本体データに連結して左揃えにします。

### ◎ 文字 : 垂直位置 (mm) :

本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

### ◎ 文字 : 14 桁水平位置 (mm) :

14 桁（標準バージョン）文字の水平位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。「文字 : 揃え :」が標準フォーマットまたはべたのときに有効です。

### ◎ 文字 : 16 桁水平位置 (mm) :

16 桁（拡張バージョン）文字の水平位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。「文字 : 揃え :」が標準フォーマットまたはべたのときに有効です。

※ 2010 年以降 ITF16 の使用は禁止されました。

### ◎ 文字 : 6 桁水平位置 (mm) :

6 桁（アドオンバージョン）文字の水平位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。「文字 : 揃え :」が標準フォーマットまたはべたのときに有効です。

### ◎ 文字 : キャラクタ間距離 (mm) :

「文字 : 揃え :」が標準フォーマットのときに限り有効です。

### ◎ 文字 : トラッキング (em/1000) :

データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。「文字 : 揃え :」が標準フォーマット以外の場合に有効です。

### ◎ 文字 : 行方向比率 (%) :

データ文字の行方向の比率を指定します。

## ▶ バーコード ROBO4 > Interleaved 2 of 5

Interleaved 2 of 5 は INTERMEC TECHNOLOGIES INC が開発したバーコード・シンボルで、日本では段ボール印刷に適するかたちで物流商品コード (ITF) という呼び名で規格化 (JIS X 0502) されました。

バーコード ROBO4 ではこの Interleaved 2 of 5 を用いて物流商品コード (JIS X 0502) を作成することも可能ですが、専用の「物流商品コード (ITF), アドオン」パレットをお使いください。

JIS X 0505 (インターリーブド 2 オブ 5) で規格化されています。



チェックデジットを必要としないか、データにチェックデジットが付加済みで検証も不要な場合には (1) を選択してください。

(2) ではデータ本体部として入力された最後のキャラクタ (ストップコードがあれば除外) をチェックデジットと見なしてチェック計算がおこなわれ、もし間違っていれば訂正したものと差し替えてシンボル化されます。

(3) では本体部として入力されたデータにチェックデジットが計算付加されてシンボル化されます。

なお、これらの場合に使用されるチェックデジットの算出方法は「種類:」で指定されたものが使用されます。

チェックデジットについては「バーコード ROBO4 > チェックデジットについての補足」もご覧ください。

チェックデジットを用いる場合は、JIS X 0505 では「モジュラス 10/ ウェイト 3,1」を標準としています。

### ◎ 文字をアウトライン化 (チェックボックス)

データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 拡大縮小率 (%):

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

### ◎ シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm): / ベアラバーを除く幅 (mm) × 高さ (mm): / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm): (ポップアップ)

3 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ / ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ / バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

### ◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 作成 / 再生 (ボタン)

バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

### ◎ 細エLEMENTの幅 (mm):

最小値は 0.191 mm です。

### ◎ 太 / 細ELEMENT比:

細ELEMENT幅 (X) に対して、 $X > 0.508 \text{ mm}$  のときは 2.0 から 3.0、 $X \leq 0.508 \text{ mm}$  のときは 2.2 から 3.0 です。

### ◎ バーの高さ (mm):

黒ELEMENTの高さです。

JIS X 0505 では最小バー高さとして、手動で読み取る場合には 5mm または左右余白 (クワイエットゾーン) を除くシンボル幅の 15% のいずれか大きい方とすることが推奨されています。

### ◎ 左右余白 (mm):

フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。

JIS X 0505 では、細ELEMENT幅 (X) に対し 10X 以上と定められています。

### ◎ 上下余白 (mm):

フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。通常初期設定値のままにしておいて下さい。

※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

### ◎ ベアラバーなし / 枠ベアラバーの幅 (mm): / 上下ベアラバーの幅 (mm): (ポップアップ)

ベアラバーを設定するときは、2 通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型 / 上下だけのもので設定するの意。

### ◎ 黒バー幅の補正值 (1/1000mm):

1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。

→チュートリアル編

### ◎ 文字: フォント: (ポップアップ)

データ文字のフォントを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

### ◎ 文字: サイズ (pt):

データ文字のサイズを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

### ◎ 文字: サイズ (pt): 標準 (ボタン)

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

### ◎ 文字: 揃え: (ポップアップ)

「標準フォーマット / 左 / 中央 / 右 / べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。

### ◎ 文字: 垂直位置 (mm):

本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

### ◎ 文字: トラッキング (em/1000):

データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。

### ◎ 文字: 行方向比率 (%):

データ文字の行方向の比率を指定します。

ご注意:

Interleaved 2 of 5 では、スタートシンボルパターンとストップシンボルパターンに相当するパターンが、コードを符号化したシンボル中に検出されショートスキャン (途中終了読み取り) が生じる場合があります。このリスクを抑える手段として、アプリケーションで運用時にシンボル長を指定しておいたり、シンボルにベアラバーを付加する方法があります。詳しくは JIS X 0505 (「バーコードに関する参考文献など」参照) をお読みください。

パレット項目について

### ◎ データ:

データ入力時には「チェックデジット・オプション:」にもご注意ください。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。チェックデジットについては「チェックデジット・オプション」の指定により、データ入力部の隣接枠内に表示されます。

### ◎ データ: 出力 (チェックボックス)

データ文字の出力を制御。

### ◎ チェックデジット・オプション: (ラジオボタン他)

(1) 処理しない

(2) チェック / 訂正

(3) 自動付加

の 3 通りから選択できます。



## ▶ バーコード ROBO4 > Code 2 of 5 (Industrial 2 of 5)

Code 2 of 5 は Industrial 2 of 5、Standard 2 of 5、Discrete 2 of 5 とも呼ばれているバーコード・シンボルです。印字密度は低く、現在使用されているバーコード・シンボルのうち最も古くからあるものです。



- (2) チェック／訂正
  - (3) 自動付加
- の3通りから選択できます。

チェックデジットを必要としないか、データにチェックデジットが付加済みで検証も不要な場合には(1)を選択してください。

(2) ではデータ本体部として入力された最後のキャラクタ(ストップコードがあれば除外)をチェックデジットと見なしてチェック計算がおこなわれ、もし間違っていれば訂正したものと差し替えてシンボル化されます。

(3) では本体部として入力されたデータにチェックデジットが計算付加されてシンボル化されます。

なお、これらの場合に使用されるチェックデジットの算出方法は「種類:」で指定されたものが使用されます。

チェックデジットについては「バーコード ROBO4 > チェックデジットについての補足」もご覧ください。

### ◎ 文字をアウトライン化(チェックボックス)

データ文字をアウトライン(パス)化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 背景透過(チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム(パス)の背景を透過(塗り色無しに)するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 拡大縮小率(%):

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

### ◎ シンボルの全幅(mm)×全高(mm): /ベアラバーを除く幅(mm)×高さ(mm): /バーのみの幅(mm)×高さ(mm): (ポップアップ)

3通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ／ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ／バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

### ◎ ライブ(チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 作成／再生(ボタン)

バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編

### ◎ 細エレメントの幅(mm):

最小値は0.191 mmです。

### ◎ 太／細エレメント比:

細エレメント幅(X)に対して、 $X > 0.508$  mm のときは2.0 から3.0、 $X \leq 0.508$  mm のときは2.2 から3.0です。

### ◎ バーの高さ(mm):

黒エレメントの高さです。

### ◎ スペースの幅(mm):

細エレメント幅以上です。

### ◎ 左右余白(mm):

フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。

細エレメント幅(X)に対し10X mm または2.54 mm のいずれか大きい方以上とされています。

### ◎ 上下余白(mm):

フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。通常初期設定値のままにしておいて下さい。

※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

### ◎ ベアラバーなし／枠ベアラバーの幅(mm): /上下ベアラバーの幅(mm): (ポップアップ)

ベアラバーを設定するときは、2通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型／上下だけのもので設定するの意。

### ◎ 黒バー幅の補正值(1/1000mm):

1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

### ◎ 文字: フォント: (ポップアップ)

データ文字のフォントを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

### ◎ 文字: サイズ(pt):

データ文字のサイズを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

### ◎ 文字: サイズ(pt): 標準(ボタン)

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

### ◎ 文字: 揃え: (ポップアップ)

「標準フォーマット／左／中央／右／べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。

### ◎ 文字: 垂直位置(mm):

本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

### ◎ 文字: トラッキング(em/1000):

データ文字のトラッキング値をem/1000 単位で指定します。

### ◎ 文字: 行方向比率(%):

データ文字の行方向の比率を指定します。

パレット項目について

### ◎ データ:

データ入力時には「チェックデジット・オプション:」にもご注意下さい。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。チェックデジットについては「チェックデジット・オプション」の指定により、データ入力部の隣接枠内に表示されます。

### ◎ データ: 出力(チェックボックス)

データ文字の出力を制御。

### ◎ チェックデジット・オプション: (ラジオボタン他)

(1) 処理しない

## ▶ バーコード ROBO4 > Matrix 2 of 5

Matrix 2 of 5 はオランダの Nieaf 社が開発したバーコード・シンボルです。  
日本の NEC 2 of 5 とは別物ですのでご注意ください。



クタ（ストップコードがあれば除外）をチェックデジットと見なしてチェック計算がおこなわれ、もし間違っていれば訂正したものと差し替えてシンボル化されます。  
（3）では本体部として入力されたデータにチェックデジットが計算付加されてシンボル化されます。  
なお、これらの場合に使用されるチェックデジットの算出方法は「種類:」で指定されたものが使用されます。  
チェックデジットについては「バーコード ROBO4 > チェックデジットについての補足」もご覧ください。

◎ **文字をアウトライン化（チェックボックス）**  
データ文字をアウトライン（パス）化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **背景透過（チェックボックス）**  
余白を確保するためのフレーム（パス）の背景を透過（塗り色無しに）するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **拡大縮小率（%）:**  
バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

◎ **シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm): / ベアラバーを除く幅 (mm) × 高さ (mm): / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm): (ポップアップ)**  
3通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ／ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ／バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

◎ **ライブ（チェックボックス）**  
作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **作成／再生（ボタン）**  
バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編

◎ **細エレメントの幅 (mm):**  
最小値は 0.191 mm です。

◎ **太／細エレメント比:**

細エレメント幅 (X) に対して、 $X > 0.508 \text{ mm}$  のときは 2.0 から 3.0、 $X \leq 0.508 \text{ mm}$  のときは 2.2 から 3.0 です。

◎ **バーの高さ (mm):**  
黒エレメントの高さです。

◎ **キャラクタ間ギャップ (mm):**  
細エレメント幅以上です。

◎ **左右余白 (mm):**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。  
細エレメント幅 (X) に対し 10X mm または 2.54 mm のいずれか大きい方以上とされています。

◎ **上下余白 (mm):**  
フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。通常初期設定値のままにしておいて下さい。  
※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

◎ **ベアラバーなし／枠ベアラバーの幅 (mm): / 上下ベアラバーの幅 (mm): (ポップアップ)**  
ベアラバーを設定するときは、2通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型／上下だけのもので設定するの意。

◎ **黒バー幅の補正值 (1/1000mm):**  
1/1000 mm（ミクロン）単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

◎ **文字: フォント: (ポップアップ)**  
データ文字のフォントを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

◎ **文字: サイズ (pt):**  
データ文字のサイズを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

◎ **文字: サイズ (pt): 標準（ボタン）**  
データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

◎ **文字: 揃え: (ポップアップ)**  
「標準フォーマット／左／中央／右／べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。

◎ **文字: 垂直位置 (mm):**  
本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

◎ **文字: トラッキング (em/1000):**  
データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。

◎ **文字: 行方向比率 (%):**  
データ文字の行方向の比率を指定します。

パレット項目について

◎ **データ:**  
データ入力時には「チェックデジット・オプション:」にもご注意下さい。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。チェックデジットについては「チェックデジット・オプション」の指定により、データ入力部の隣接枠内に表示されます。

◎ **データ: 出力（チェックボックス）**  
データ文字の出力を制御。

◎ **チェックデジット・オプション: (ラジオボタン他)**  
（1）処理しない  
（2）チェック／訂正  
（3）自動付加  
の3通りから選択できます。

チェックデジットを必要としないか、データにチェックデジットが付加済みで検証も不要な場合には（1）を選択してください。

（2）ではデータ本体部として入力された最後のキャラ

## ▶ バーコード ROBO4 > NEC 2 of 5

NEC 2 of 5 はその名の通り日本電気株式会社が開発したバーコード・シンボルです。

Matrix 2 of 5 とは別物ですのでご注意ください。



パレット項目について

### ◎ データ：

データ入力時には「チェックデジット・オプション：」にもご注意ください。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。チェックデジットについては「チェックデジット・オプション」の指定により、データ入力部の隣接枠内に表示されます。

### ◎ データ：出力（チェックボックス）

データ文字の出力を制御。

### ◎ チェックデジット・オプション：（ラジオボタン他）

- （１）処理しない
- （２）チェック／訂正
- （３）自動付加

の３通りから選択できます。

チェックデジットを必要としないか、データにチェックデジットが付加済みで検証も不要な場合には（１）を選択してください。

（２）ではデータ本体部として入力された最後のキャラクタ（ストップコードがあれば除外）をチェックデジットと見なしてチェック計算がおこなわれ、もし間違っていれば訂正したものと差し替えてシンボル化されます。

（３）では本体部として入力されたデータにチェックデジットが計算付加されてシンボル化されます。

なお、これらの場合に使用されるチェックデジットの算出方法は「種類：」で指定されたものが使用されます。

チェックデジットについては「バーコード ROBO4 >

チェックデジットについての補足」もご覧ください。

### ◎ 文字をアウトライン化（チェックボックス）

データ文字をアウトライン（パス）化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 背景透過（チェックボックス）

余白を確保するためのフレーム（パス）の背景を透過（塗り色無しに）するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 拡大縮小率（％）：

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

### ◎ シンボルの全幅(mm) ×全高(mm): /ベアラバーを除く幅(mm) ×高さ(mm): /バーのみの幅(mm) ×高さ(mm): (ポップアップ)

３通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ／ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ／バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

### ◎ ライブ（チェックボックス）

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 作成／再生（ボタン）

バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編

### ◎ 細エLEMENTの幅(mm):

最小値は 0.191 mm です。

### ◎ 太／細エLEMENT比：

細エLEMENT幅(X) に対して、 $X > 0.508 \text{ mm}$  のときは 2.0 から 3.0、 $X \leq 0.508 \text{ mm}$  のときは 2.2 から 3.0 です。

### ◎ バーの高さ(mm):

黒エLEMENTの高さです。

### ◎ キャラクタ間ギャップ(mm):

細エLEMENT幅以上です。

### ◎ 左右余白(mm):

フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。

細エLEMENT幅(X) に対し  $10X \text{ mm}$  または  $2.54 \text{ mm}$  のいずれか大きい方以上とされています。

### ◎ 上下余白(mm):

フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。通常初期設定値のままにしておいて下さい。

※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

### ◎ ベアラバーなし／枠ベアラバーの幅(mm): /上下ベアラバーの幅(mm): (ポップアップ)

ベアラバーを設定するときは、２通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型／上下だけのものと設定するの意。

### ◎ 黒バー幅の補正值(1/1000mm):

1/1000 mm（ミクロン）単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

### ◎ 文字：フォント：（ポップアップ）

データ文字のフォントを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

### ◎ 文字：サイズ(pt):

データ文字のサイズを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

### ◎ 文字：サイズ(pt): 標準（ボタン）

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

### ◎ 文字：揃え：（ポップアップ）

「標準フォーマット／左／中央／右／べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。

### ◎ 文字：垂直位置(mm):

本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー

下端を基準とし、下方向がプラス値。

### ◎ 文字：トラッキング(em/1000):

データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。

### ◎ 文字：行方向比率(%):

データ文字の行方向の比率を指定します。



## ▶ バーコード ROBO4 > MSI (Plessey)

MSI (Plessey) はイギリスの Plessey 社が開発したバーコード・シンボルです。



(2) ではデータ本体部として入力された最後のキャラクタ (ストップコードがあれば除外) をチェックデジットと見なしてチェック計算がおこなわれ、もし間違っていれば訂正したものと差し替えてシンボル化されます。

(3) では本体部として入力されたデータにチェックデジットが計算付加されてシンボル化されます。

なお、これらの場合に使用されるチェックデジットの算出方法は「種類:」で指定されたものが使用されます。

チェックデジットについては「バーコード ROBO4 > チェックデジットについての補足」もご覧ください。

### ◎ 文字をアウトライン化 (チェックボックス)

データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 拡大縮小率 (%)

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

### ◎ シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm): / ベアラバーを除く幅 (mm) × 高さ (mm): / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm): (ポップアップ)

3通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、シンボル全体の幅と高さ / ベアラバー幅があるときの余白部までの幅と高さ / バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

### ◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 作成 / 再生 (ボタン)

バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

### ◎ 細エLEMENTの幅 (mm):

最小値は 0.2 mm です。

### ◎ 太 / 細ELEMENT比:

2 以上です。

### ◎ バーの高さ (mm):

黒ELEMENTの高さです。

### ◎ 左右余白 (mm):

フレームまたはベアラバーとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。

最小値は 6.35 mm です。

### ◎ 上下余白 (mm):

フレームまたはベアラバーとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。通常初期設定値のままにしておいて下さい。

※バーコード ROBO4 ではベアラバー上下とシンボル間の余白が 0 mm のときは完全にオーバーラップするように出力されます。

### ◎ ベアラバーなし / 枠ベアラバーの幅 (mm): / 上下ベアラバーの幅 (mm): (ポップアップ)

ベアラバーを設定するときは、2通りの方法があって、それぞれ、上下左右ともにある枠型 / 上下だけのもので設定するの意。

### ◎ 黒バー幅の補正值 (1/1000mm):

1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。

→チュートリアル編

### ◎ 文字: フォント: (ポップアップ)

データ文字のフォントを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

### ◎ 文字: サイズ (pt):

データ文字のサイズを指定します。JIS X 0506 では特に定められていません。

### ◎ 文字: サイズ (pt): 標準 (ボタン)

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

### ◎ 文字: 揃え: (ポップアップ)

「標準フォーマット / 左 / 中央 / 右 / べた」から選択して下さい。べたは左揃えと同じです。

### ◎ 文字: 垂直位置 (mm):

本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

### ◎ 文字: トラッキング (em/1000):

データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。

### ◎ 文字: 行方向比率 (%)

データ文字の行方向の比率を指定します。

パレット項目について

### ◎ データ:

データ入力時には「チェックデジット・オプション:」にもご注意ください。数字以外のキャラクタはすべて符号化から除外されますが、文字としては出力可能です。チェックデジットについては「チェックデジット・オプション」の指定により、データ入力部の隣接枠内に表示されます。

### ◎ データ: 出力 (チェックボックス)

データ文字の出力を制御。

### ◎ チェックデジット・オプション: (ラジオボタン他)

- (1) 処理しない
- (2) チェック / 訂正
- (3) 自動付加


の3通りから選択できます。

チェックデジットを必要としないか、データにチェックデジットが付加済みで検証も不要な場合には (1) を選択してください。

▶ バーコード ROB04 > 郵便カスタマ

カスタマバーコードは郵便物の宛先をバーコード・シンボル化することで自動読取区分機での処理を効率化するものです。

料金受取人払郵便物（第一種定型郵便物及び第二種郵便物）の利用条件として、郵便局長の指示する番号をカスタマバーコードで印字する必要があります。



パレット項目について

◎ **データ：**

7桁郵便番号と丁番号ビル階などから構成されるコードを半角英数字で入力します。入力後、コードの右隣欄にチェックデジットが自動計算され表示されます。料金受取人払郵便物の申請時には、このコードが郵便局から交付されます。

なお、このコード欄にはスタートコード、パディングコード(CC4)、ストップコード、チェックデジットは入力しないでください。チェックデジットは、データ入力部の隣接枠内に表示されます。

◎ **データ：出力（チェックボックス）**

データ文字の出力を制御。

◎ **背景透過（チェックボックス）**

余白を確保するためのフレーム（パス）の背景を透過（塗り色無しに）するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **拡大縮小率（%）:**

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。規格では、80%から115%とされています。

◎ **シンボル全幅 (mm) ×全高 (mm):**

余白を確保するためのフレームの全幅×全高。

◎ **ライブ（チェックボックス）**

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **作成／再生（ボタン）**

バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編

◎ **バーの幅 (mm);**

規格では、ロングバーの高さの6分の1です。

基準寸法は0.6A mmで、許容範囲は0.50A mmから0.70A mmです。ただし  $0.8 \leq A \leq 1.15$ （拡大縮小率）とする。

通常初期設定のままにしておいて下さい。

◎ **バーピッチ (mm);**

規格では、ロングバーの高さの3分の1です。

基準寸法は1.2A mmで、許容範囲は0.95A mmから1.30A mmです。ただし  $0.8 \leq A \leq 1.15$ （拡大縮小率）とする。

通常初期設定のままにしておいて下さい。

◎ **ロングバーの高さ (mm);**

基準寸法は3.6A mmで、許容範囲は3.40A mmから3.60A mmです。ただし  $0.8 \leq A \leq 1.15$ （拡大縮小率）とする。

通常初期設定のままにしておいて下さい。

◎ **タイミングバーの高さ (mm);**

規格では、ロングバーの高さの3分の1です。

基準寸法は1.2A mmで、許容範囲は1.05A mmから1.35A mmです。ただし  $0.8 \leq A \leq 1.15$ （拡大縮小率）とする。

通常初期設定のままにしておいて下さい。

◎ **左右余白 (mm):**

フレームとシンボル間の左右にある空白部の水平長。最小値は2 mmです。

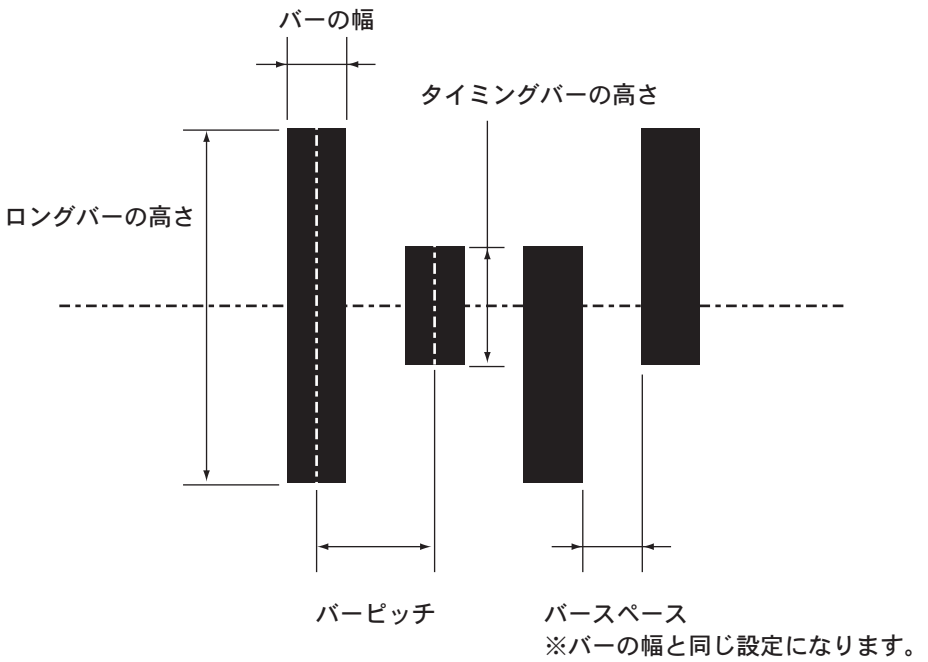
◎ **上下余白 (mm):**

フレームとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。最小値は2 mmです。

◎ **黒バー幅の補正值 (1/1000mm):**

1/1000 mm（ミクロン）単位で指定して下さい。

→チュートリアル





▶ バーコード ROB04 > PostNet

PostNet は米国の郵便番号 (ZIP) 用のバーコード・シンボルです。5 桁の ZIP コードによるもの、9 桁の ZIP コード + 4 コードによるもの、および 11 桁のデリバリーポイントコードによるものの 3 通りがあります。



パレット項目について

◎ **データ :**  
5 桁の ZIP コード、9 桁の ZIP + 4 コードまたは 11 桁のデリバリーポイントコードの数字データを入力して下さい。チェックデジットは、データ入力部の隣接枠内に表示されます。

◎ **データ : 出力 (チェックボックス)**  
データ文字の出力を制御。

◎ **背景透過 (チェックボックス)**  
余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **拡大縮小率 (%) :**  
バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。規格では、80% から 115% とされています。

◎ **シンボル全幅 (mm) × 全高 (mm) :**  
余白を確保するためのフレームの全幅 × 全高。

◎ **ライブ (チェックボックス)**  
作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ **作成 / 再生 (ボタン)**  
バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

◎ **バーの幅 (mm) :**  
規格では、0.508 mm ± 0.127 mm (0.020 " ± 0.005 ") です。通常初期設定のままにしておいて下さい。

◎ **スペース / バー幅比 :**  
スペースの幅は規格では、最小値 0.3048 mm (0.012 ")、最大値 1.016 mm (0.040 ") です。したがってこれらの平均値 0.6604 mm (0.026 ") のバーの幅 0.508 mm (0.020 ") に対する比率として 1.3 が標準的な値ということになります。  
通常初期設定のままにしておいて下さい。

◎ **フルバーの高さ (mm) :**  
規格では、3.175 mm ± 0.254 mm (0.125 " ± 0.010 ") です。通常初期設定のままにしておいて下さい。

◎ **ハーフバーの高さ (mm) :**  
規格では、1.27 mm ± 0.254 mm (0.05 " ± 0.010 ") です。通常初期設定のままにしておいて下さい。

◎ **左右余白 (mm) :**  
フレームとシンボル間の左右にある空白部の水平長。  
規格では、最小値が 3.175 mm (0.125 ") です。

◎ **上下余白 (mm) :**  
フレームとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。  
規格では、最小値が 1.016 mm (0.040 ") です。

◎ **黒バー幅の補正值 (1/1000mm) :**  
1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル

## ▶ バーコード ROBO4 > GS1 データバー タイプ 1, CC-A/B

GS1 データバー タイプ 1 (GS1 DataBar) には、次の 4 種類があります

- ・標準型 (Omnidirectional)
- ・切詰型 (Truncated)
- ・二層型 (Stacked)
- ・標準二層型 (Stacked Omnidirectional)

バーコード ROBO4 は、それぞれについてのコンポジット (複合) シンボルである CC-A と CC-B もフルサポートしています。

GS1 データバー タイプ 1 は JIS X 0509 (ISO/IEC 24724) で、CC-A および CC-B は ISO/IEC 24723 で、また二次元シンボルのベースとなっている MicroPDF417 は ISO/IEC 24728 で規格化されています。



二層型 (Stacked)



標準型 CC-A

パレット項目について

### ◎ バージョン (ポップアップ)

バージョンの選択をします。上に挙げた 4 つの基本型と、それらのコンポジット・シンボル CC-A と CC-B の派生型が各 4 つずつあります。

### ◎ データ・[リニア部] :

全バージョンに必須の本体 1 次元シンボルのためのデータ入力欄です。

アプリケーション識別子 AI の (01) に続けて GTIN\* の 14 桁の数字を入力します。末尾の 14 桁目はチェックデジットですので、省略したり誤った数字が指定されても追加または正しいもので出力されます。チェックデジットはデータ欄の右隣りに表示されます。

数字以外のキャラクタはバーコードシンボルとして符号化されません。各アプリケーション識別子 AI は ( ) などで囲むか、データ領域との間にスペースを入れてくだ

さい。AI の区切りキャラクタは符号化されません。

\*GTIN=Global Trade Item Number (国際取引商品コード)

### ◎ データ・[リニア部] : 出力 (チェックボックス)

リニア部データ文字の出力を制御。

### ◎ データ・2 D 部 :

CC-A または CC-B バージョンを選択したときに有効です。合成する二次元シンボルのデータを入力します。各アプリケーション識別子 AI は ( ) などで囲むか、データ領域との間にスペースを入れてください。AI の区切りキャラクタは符号化されません。

【注意】AI の区切りキャラクタは、必ずリニア部のデータと同じものを使用してください。

### ◎ データ・2 D 部 : 出力 (チェックボックス)

2 D 部データ文字の出力を制御。「リニア部データ : 出力」がオフの時は 2 D 部も出力されません。

### ◎ データ・2 D 部 : 符号化除外文字 :

2 D 部データ欄に入力する文字のうちバーコードシンボル化から除く文字を指定します。ただし、符号化除外文字もデータ文字としては出力されます。

### ◎ 文字をアウトライン化 (チェックボックス)

データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 拡大縮小率 (%):

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

### ◎ 余白を含めた幅 (mm) × 高さ (mm): / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm): (ポップアップ)

2 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、余白を確保するためのフレームの幅と高さ / バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

### ◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 作成 / 再生 (ボタン)

バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

### ◎ モジュールの幅 (mm):

JIS X 0509 (ISO/IEC 24724) では特に定められていませんが、通常初期設定値のままにしておいて下さい。

### ◎ リニア部バーの高さ (mm):

GS1 データバー本体部のバーの高さを指定します。  
JIS X 0509 ではモジュール幅 (X) に対し標準型では 33X、切詰型では 13X、二層型では上段が 5X、下段が 7X、標準二層型では上下段とも 33X が最小値とされています。  
二層型の場合は上段の高さを指定します。

### ◎ 2 D 部バーの高さ (mm):

CC-A または CC-B バージョンを選択したときに二次元シンボル部の行当たりバーの高さを指定します。シンボルの全高のことではありません。  
ISO/IEC 24723 ではモジュール幅 (X) に対し最小値は 2X とされています。

### ◎ セパレータバーの高さ (mm):

スタック形式の行間や、CC-A または CC-B バージョンを選択したときに二次元シンボル部と GS1 データバーシンボル部を分けるシンボル領域の バーの高さを指定します。  
ISO/IEC 24723 ではモジュール幅 (X) に対し最小値は X とされています。

### ◎ 左右余白 (mm):

フレームとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。  
通常ゼロで構いません。ゼロの場合でも必要に応じ 1 モジュール分のスペースが確保されます。

### ◎ 上下余白 (mm):

フレームとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。  
ISO/IEC 24724 では必要なしとされています。

### ◎ 黒バー幅の補正值 (1/1000mm):

1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。

→チュートリアル編

### ◎ 文字 : フォント : (ポップアップ)

データ文字のフォントを指定します。JIS では特に定められていません。

### ◎ 文字 : サイズ (pt):

データ文字のサイズを指定します。JIS では特に定められていません。

### ◎ 文字 : サイズ (pt): 標準 (ボタン)

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

### ◎ 文字 : 揃え : (ポップアップ)

「標準フォーマット / 左 / 中央 / 右 / べた」から選択して下さい。標準フォーマットは中央揃えと、べたは左揃えと同じです。

### ◎ 文字 : 垂直位置 (mm):

本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

### ◎ 文字 : 2 D 部行送り (%):

CC-A または CC-B バージョンを選択したときに二次元シンボル部の目視用データ文字はリニア部の下行に表示できますが、このときの送り量を文字サイズに対する比率で指定します。

### ◎ 文字 : トラッキング (em/1000):

データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。

### ◎ 文字 : 行方向比率 (%):

データ文字の行方向の比率を指定します。

## ▶ バーコード ROBO4 > GS1 データバー タイプ 2, CC-A/B

GS1 データバー タイプ 2 (GS1 DataBar Limited) は GS1 データバーファミリーの中でも最小のもので、次の 1 種類です。

・限定型 (Limited)

バーコード ROBO4 は、それぞれについてのコンポジット (複合) シンボルである CC-A と CC-B もフルサポートしています。

GS1 データバー タイプ 2 は JIS X 0509 (ISO/IEC 24724) で、CC-A および CC-B は ISO/IEC 24723 で、また二次元シンボルのベースとなっている MicroPDF417 は ISO/IEC 24728 で規格化されています。



パレット項目について

### ◎ バージョン (ポップアップ)

バージョンの選択をします。限定型とそのコンポジット・シンボル CC-A と CC-B の派生型があります。

### ◎ データ・リニア部:

全バージョンに必須の本体 1 次元シンボルのためのデータ入力欄です。

アプリケーション識別子 AI の (01) に続けて GTIN\* の 14 桁の数字を入力します。ただし限定型の場合は、GTIN の一桁目 (Indicator Digit) は 0 か 1 に限定されています。末尾の 14 桁目はチェックデジットですので、省略したり誤った数字が指定されても追加または正しいもので出力されます。チェックデジットはデータ欄の右隣りに表示されます。

数字以外のキャラクタはバーコードシンボルとして符

号化されません。各アプリケーション識別子 AI は ( ) などで囲むか、データ領域との間にスペースを入れてください。AI の区切りキャラクタは符号化されません。

\*GTIN=Global Trade Item Number (国際取引商品コード)

### ◎ データ・リニア部: 出力 (チェックボックス)

リニア部データ文字の出力を制御。

### ◎ データ・2 D 部:

CC-A または CC-B バージョンを選択したときに有効です。合成する二次元シンボルのデータを入力します。各アプリケーション識別子 AI は ( ) などで囲むか、データ領域との間にスペースを入れてください。AI の区切りキャラクタは符号化されません。  
【注意】AI の区切りキャラクタは、必ずリニア部のデータと同じものを使用してください。

### ◎ データ・2 D 部: 出力 (チェックボックス)

2 D 部データ文字の出力を制御。「リニア部データ: 出力」がオフの時は 2 D 部も出力されません。

### ◎ データ・2 D 部: 符号化除外文字:

2 D 部データ欄に入力する文字のうちバーコードシンボル化から除く文字を指定します。ただし、符号化除外文字もデータ文字としては出力されます。

### ◎ 文字をアウトライン化 (チェックボックス)

データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 拡大縮小率 (%):

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

### ◎ 余白を含めた幅 (mm) × 高さ (mm): / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm): (ポップアップ)

2 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、余白を確保するためのフレームの幅と高さ / バーのみの幅と

高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

### ◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 作成 / 再生 (ボタン)

バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

### ◎ モジュールの幅 (mm):

JIS X 0509 (ISO/IEC 24724) では特に定められていませんが、通常初期設定値のままにしておいて下さい。

### ◎ リニア部バーの高さ (mm):

GS1 データバー本体部のバーの高さを指定します。  
JIS X 0509 (ISO/IEC 24724) ではモジュール幅 (X) に対し最小値は 33X とされています。

### ◎ 2 D 部バーの高さ (mm):

CC-A または CC-B バージョンを選択したときに二次元シンボル部の行当たりバーの高さを指定します。シンボルの全高のことではありません。  
ISO/IEC 24723 ではモジュール幅 (X) に対し最小値は 2X とされています。

### ◎ セパレータバーの高さ (mm):

CC-A または CC-B バージョンを選択したときに二次元シンボル部と GS1 データバーシンボル部を分けるシンボル領域のバーの高さを指定します。  
ISO/IEC 24723 ではモジュール幅 (X) に対し最小値は X とされています。

### ◎ 左右余白 (mm):

フレームとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。  
通常ゼロで構いません。ゼロの場合でも必要に応じ 1 モジュール分のスペースが確保されます。

### ◎ 上下余白 (mm):

フレームとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。ISO/IEC 24724 では必要なしとされています。

### ◎ 黒バー幅の補正值 (1/1000mm):

1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

### ◎ 文字: フォント: (ポップアップ)

データ文字のフォントを指定します。JIS では特に定められていません。

### ◎ 文字: サイズ (pt):

データ文字のサイズを指定します。JIS では特に定められていません。

### ◎ 文字: サイズ (pt): 標準 (ボタン)

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

### ◎ 文字: 揃え: (ポップアップ)

「標準フォーマット / 左 / 中央 / 右 / べた」から選択して下さい。標準フォーマットは中央揃えと、べたは左揃えと同じです。

### ◎ 文字: 垂直位置 (mm):

本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

### ◎ 文字: 2 D 部行送り (%):

CC-A または CC-B バージョンを選択したときに二次元シンボル部の目視用データ文字はリニア部の下行に表示できますが、このときの送り量を文字サイズに対する比率で指定します。

### ◎ 文字: トラッキング (em/1000):

データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。

### ◎ 文字: 行方向比率 (%):

データ文字の行方向の比率を指定します。



## ▶ バーコード ROBO4 > GS1 データバー タイプ 3, CC-A/B

GS1 データバー タイプ 3 (GS1 DataBar Expanded) には、次の 2 種類があります。

- ・ 拡張型 (Expanded)
- ・ 拡張多層型 (Expanded Stacked)

バーコード ROBO4 は、それぞれについてのコンポジット (複合) シンボルである CC-A と CC-B もフルサポートしています。

GS1 データバー タイプ 3 は JIS X 0509 (ISO/IEC 24724) で、CC-A および CC-B は ISO/IEC 24723 で、また二次元シンボルのベースとなっている MicroPDF417 は ISO/IEC 24728 で規格化されています。



パレット項目について

### ◎ バージョン (ポップアップ)

バージョンの選択をします。上に挙げた 2 つの基本型と、それらのコンポジット・シンボル CC-A と CC-B の派生型が各 2 つずつあります。

### ◎ データ・リニア部:

全バージョンに必須の本体 1 次元シンボルのためのデータ入力欄です。

一般にはアプリケーション識別子 AI の (01) に続けて GTIN\* の 14 桁の数字から入力します。末尾の 14 桁目はチェックデジットですので、省略したり誤った数字が指定されても追加または正しいもので出力されます。拡張型の場合は通常この後にも別の AI 部が続きます。また他の GS1 データバーと異なり、任意の AI から始めることができます。各アプリケーション識別子 AI は ( ) などで囲むか、データ領域との間にスペースを入れてください。

AI の区切りキャラクタは符号化されません。

\*GTIN=Global Trade Item Number(国際取引商品コード)

### ◎ データ・リニア部: 出力 (チェックボックス)

リニア部データ文字の出力を制御。

### ◎ データ・2 D 部:

CC-A または CC-B バージョンを選択したときに有効です。合成する二次元シンボルのデータを入力します。各アプリケーション識別子 AI は ( ) などで囲むか、データ領域との間にスペースを入れてください。AI の区切りキャラクタは符号化されません。  
【注意】AI の区切りキャラクタは、必ずリニア部のデータと同じものを使用してください。

### ◎ データ・2 D 部: 出力 (チェックボックス)

2 D 部データ文字の出力を制御。「リニア部データ: 出力」がオフの時は 2 D 部も出力されません。

### ◎ データ: 符号化除外文字 (共用):

データ欄に入力する文字のうちバーコードシンボル化から除く文字を指定します。ただし、符号化除外文字もデータ文字としては出力されます。

### ◎ 文字をアウトライン化 (チェックボックス)

データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 拡大縮小率 (%):

バーコード・シンボル全体の拡大または縮小率を指定します。

### ◎ 余白を含めた幅 (mm) × 高さ (mm): / バーのみの幅 (mm) × 高さ (mm): (ポップアップ)

2 通りの表示方法から選んで下さい。それぞれ、余白を確保するためのフレームの幅と高さ / バーのみの幅と高さで表示するの意。高さ表示欄は入力が可能です。

### ◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 作成 / 再生 (ボタン)

バーコードを作成 / バーコードを再生 →チュートリアル編

### ◎ モジュールの幅 (mm):

ISO/IEC 24724 では特に定められていませんが、通常初期設定値のままにしておいて下さい。

### ◎ リニア部バーの高さ (mm):

GS1 データバー本体部のバーの高さを指定します。  
JIS X 0509 (ISO/IEC 24724) ではモジュール幅 (X) に対し拡張型では 34X、拡張多層型では上下段とも 34X が最小値とされています。

### ◎ 2 D 部バーの高さ (mm):

CC-A または CC-B バージョンを選択したときに二次元シンボル部の行当たりバーの高さを指定します。シンボルの全高のことではありません。  
ISO/IEC 24723 ではモジュール幅 (X) に対し最小値は 2X とされています。

### ◎ セパレータバーの高さ (mm):

スタック形式の行間や、CC-A または CC-B バージョンを選択したときに二次元シンボル部と GS1 データバーシンボル部を分けるシンボル領域のバーの高さを指定します。  
ISO/IEC 24723 ではモジュール幅 (X) に対し最小値は X とされています。

### ◎ 左右余白 (mm):

フレームとシンボル間の左右にある空白部の水平長。クワイエットゾーンとも呼ばれています。  
通常ゼロで構いません。ゼロの場合でも必要に応じ 1 モジュール分のスペースが確保されます。

### ◎ 上下余白 (mm):

フレームとシンボル間の上下にある空白部の垂直長。ISO/IEC 24724 では必要なしとされています。

### ◎ 黒バー幅の補正值 (1/1000mm):

1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。  
→チュートリアル編

### ◎ 文字: フォント: (ポップアップ)

データ文字のフォントを指定します。JIS では特に定められていません。

### ◎ 文字: サイズ (pt):

データ文字のサイズを指定します。JIS では特に定められていません。

### ◎ 文字: サイズ (pt): 標準 (ボタン)

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

### ◎ 文字: 揃え: (ポップアップ)

「標準フォーマット / 左 / 中央 / 右 / べた」から選択して下さい。標準フォーマットは中央揃えと、べたは左揃えと同じです。

### ◎ 文字: 垂直位置 (mm):

本体データ文字の垂直位置を指定します。データバー下端を基準とし、下方向がプラス値。

### ◎ 文字: 2 D 部行送り (%):

CC-A または CC-B バージョンを選択したときに二次元シンボル部の目視用データ文字はリニア部の下行に表示できますが、このときの送り量を文字サイズに対する比率で指定します。

### ◎ 文字: トラッキング (em/1000):

データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。

### ◎ 文字: 行方向比率 (%):

データ文字の行方向の比率を指定します。

▶ バーコード ROBO4 > QR コード

QR (Quick Response) コードは日本の株式会社デンソーウェーブが開発したマトリクス型の二次元バーコード・シンボルです。名前が示す通り高速読み取りができ、近年携帯電話での読み取りも可能になったことから日本で最も普及している二次元コードになりました。JIS X 0510 で規格化されています。



< 図 .1 >

パレット項目について

◎ タイプ：(ポップアップ)

モデルの選択をします。モデル 1 とモデル 2 を選べますが、新規運用にははモデル 2 を選んで下さい。モデル 1 は旧仕様との互換のためにあります。

◎ 誤り訂正レベル：(ポップアップ)

誤り訂正レベルを指定します。L,M,Q,H の順にシンボルの損傷に対する復元能力は高まりますが、その分同じサイズのシンボル内に納められるデータ量は減少します。

◎ バージョン (型番)：(ポップアップ)

バージョン (型番) を選びます。通常は自動判別にしておいてください。特定のバージョンを選ぶと符号化するデータ量によってバージョンを調節する必要があります。

※組版 ROBO4 との併用によって外部データ取り込む際、データ量がまちまちだがサイズを統一したい場合に、取り込みデータ中最大のもの (あるいは大きめに見込んだもの) に合わせたバージョンのシンボルを取り込み口にしてください。ただし万一データサイズが大きすぎるものが渡されるとその分の出力処理は飛ばされます。(固定バージョンを指定しておいて、「連結数」を自動分割としておく方法もあります。)

◎ モード：(ポップアップ)

自動判別、数字、英数字、8 ビットバイト、漢字、混在モードの中から選択できますが、通常は自動判別を指定して

ください。自動判別モードはモード混在時にも、混在モードと同様、できるだけ小さいシンボルになるようなモードチェンジをおこないます。CS6 以降用には UTF-8 モードがあります。

◎ 連結数：(ポップアップ)

連結モード時の分割数を指定します。1 ～ 16 分割および自動分割を選択できます。自動分割はたいてい「バージョン (型番)」が固定時に有効です。自動分割時には、データ量が現在の指定バージョンで許容できないときに 2 つ以上の分割がおこなわれます。「連結時最大列数」にもご注意ください。

◎ GS1QR コード：(チェックボックス)

CS6 以降用のパネルにあります。汎用にはチェック外してください。

◎ データ：

データ入力には次のいくつかの方法があります。

- (1) 自由編集
- (2) アドレス帳関連<携帯キャリア別に 3 通り>
- (3) メール関連<携帯キャリア別に 3 通り>
- (4) Web 関連<携帯キャリア別に 3 通り>
- (5) i アプリ連携 (docomo) ...
- (6) コンテンツ認識 (docomo) ...
- (7) ファイルから読み込み ...

(1) は自由形式でデータ欄に入力する際に使います。外字コード等の表記方法は「特殊キャラクタの表記規則」セクションをご覧ください。

(2) ～ (6) は、ケータイ連携 QR コード専用のタグ付データを作成するために設けられたものです。これらについては「ケータイ用フォーム」セクションをご覧ください。

※これらの個別フォーマットの代わりにバーコード ROBO4 付属の「ケータイ連携 QR データ変換」ファイルを利用することでより柔軟な運用が可能です。

(7) では外部ファイル (モード対応のテキスト形式) の内容をデータ欄に読み込むことができます。その際、制御コードなどはすべて自動的に代替表記 (「入力用制御

コード」：ポップアップリストの表記) に置き換えられます。 ※データベースのデータで連続変換出力する場合には、「組版 ROBO > レコード順次取り込み配列」などを併用してください。

◎ データ：入力用制御コード：(ポップアップ)

各種制御コードを入力するには、「データ」欄中の目的の位置にカーソルを置き、このポップアップからコードを選択してください。同じ書式であれば手入力しても構いません。

◎ 符号化データ数／現モードでの許容数：

現モードでのデータ許容数に対する符号化するデータ数、およびその時のバージョン (型番) と連結モード時の分割数を括弧内に表示します。データ数は 1 半角文字や制御コードを 1、1 全角文字や外字コード (別セクション参照) は 2 とカウントします。

◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ モジュールサイズ (mm)：

シンボルを構成するモジュールの 1 辺のサイズを指定します。(図 .2 参照) 通常 0.25 mm 以上を推奨します。

◎ モジュールの全幅 (mm) ×全高 (mm)：

余白を確保するためのフレームの全幅×全高。

◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ 作成／再生 (ボタン)

バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編

◎ 余白モジュール数：

フレームとシンボル間にある余白をモジュール数で指定します。(図 .2 参照)

JIS X 0510 では、最小モジュール数は 4 とされています。

◎ モジュールの補正值 (1/1000mm)：

1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。 →チュートリアル編

◎ 連結時最大列数：(ポップアップ)

連結時の横方向の最大数を指定します。例えば 3 なら横方向に 3 個並ぶごとに出力位置が改行復帰します。

◎ 改行の制御コード：(ポップアップ)

データ欄に実改行を入れた時の改行コードの扱い方を指定します。この指定は、「ファイルから読み込み」ボタンで外部ファイルを取り込んだ時の改行コードの表記変換にも適用されます。データの表記規則については「バーコード ROBO4 > QR コード > 特殊キャラクタの表記規則」のセクションをご覧ください。

◎ マスクパターン：(ポップアップ)

通常は自動判別を選択しておいてください。複合効率を妨げるようなモジュールの配置が現れるのを最小限に抑えるために JIS X 0510 の評価基準に従い最適なマスクパターンが選択されます。





▶ バーコード ROBO4 > QRコード > ケータイ用フォーム

これらのフォーム・ダイアログは、携帯電話への自動登録（入力）を実現させるための QR コード用データを作成するものです。

以下において、説明のための機能用語には一部を除いて docomo の QR コード読み取り機能のものを使用しておりますが、他のキャリアにおいても類似の機能に対応しております。

各キャリアごとの対応関係は次ページの表の通りです。

【注意】携帯電話での読み取り用 QR コードであっても、一般のテキストなどの自由形式データを QR コード化する場合には、このデータフォーマットに従う必要はありません。” 当ファイルから出力するデータフォーマットは各キャリアごとの専用 HP の仕様をもとにしております。もし仕様に変更が生じたり不都合が生じた場合はできるだけ速やかに対応したいと思います。基本的にこのファイルから出力されるデータで作成した QR コードを用いての自動登録（入力）を保証するものではありませんのであらかじめご了承ください。

○ アドレス帳連携／アドレス帳・EZ ナビウォーク連携

docomo の場合だけ、姓（セイ）と名（メイ）を分けて登録できます。他のキャリアでは各個別に入力しても姓名（セイメイ）欄にまとめて入力してもフォーマット結果は同じです。

項目名のうち、括弧付で併記してある（docomo2.0）などは指定キャリアの指定バージョン対応の機種でのみ有効です。

どのキャリアに対しても、セイ [セイメイ]、メイはそれぞれ姓 [姓名]、名の読み仮名を入れてください。ひらがな、カタカナ／かなのどれでも構いませんが、いずれも半角のかなでフォーマットされます。

「TEL1」「TEL2」「TEL3」には電話番号を、「Mail1」「Mail2」「Mail3」にはメールアドレスを必要な数だけ入力します。また、「TEL1」～「Mail3」までの英数記号は半角文字でフォーマットされます。

住所から au の EZ ナビウォークを呼び出す場合には、住所欄は都道府県名から始まり、地番表記に漢数字を含まないものでなければなりません。同欄のスペースはフォーマット時に自動的に詰められますので、ビル階数や部屋番号を続ける場合にはハイフンなど数字以外の文字で区切ってください。（例：5-19-11-5F、3-17-6 マンション 303 など）

また、au ではメモ欄で GPS 情報（URL）を直接渡すこともできます。

○ メール連携

どのキャリアもすべての項目が有効です。「宛先」の英数記号は半角文字でフォーマットされます。

○ Web 連携／Web・EZ ナビウォーク連携

ブックマーク登録機能は docomo でのみ有効です。au/SoftBank 形式に対しては「タイトル」欄は便宜上設けてあります。au 機で「タイトル」欄を「電話帳登録・EZ ナビ連携」シートの住所欄のように使用することもできます。その場合はスペースを含めないでください。「URL」の英数記号は半角文字でフォーマットされます。

【参考】au では「URL」で EZ ナビウォークの GPS 情報を渡すこともできます。

GPS 情報の取得は住所で目的地をアクセス後、メール送信でおこなうこともできます。

詳細については対応機種のマニュアル等をご覧ください。

○ i アプリ連携

このシートは docomo 専用です。「パラメータ名 n」と「パラメータ値 n」の組は PARAM プロパティの <name> と <value> の組で、16 組まで指定できます。

○ コンテンツ認識

docomo 専用です。ファイル選択ダイアログが現れますので、静止画像（GIF、JPEG）ファイルかメロディ（MFi、SMF）ファイルを選択してください。ただし QR コードの収容能力により元データの実サイズ（≠ファイルサイズ）が小さいものでないとシンボル化できません。

ヒント：極力大きな JPEG 画像をシンボル化したい場合には、低品質とし、QR パレットの誤り訂正レベルを L、バージョンを 10（下記注意も参照のこと）、連結数を自動分割にしてみてください。

【注意】携帯電話で読み取り可能な最大バージョン（型番）は、最小モジュールのサイズにもよりますが、10 程度が限界です。もしこれより大きくなるようでしたら QR コード・パレットの「連結数 :」を 2 以上にしてシンボルを分割してみてください。また各分割したシンボルの配置だけに関することですが「連結時の最大列数 :」も指定でき

ます。分割したシンボルは 1 つずつ読み取ることで自動的に全体を結合して復号することができます。

■ 携帯電話への自動登録（入力）用の QR コードを作成するためのもうひとつの方法

バーコード ROBO4 では携帯電話への自動登録（入力）を実現させるために、主なキャリアごとの QR データフォーマットを簡単に作成する手段を用意しております。詳細については付属の「ケータイ用 QR データ変換」フォルダ内の書類をご覧ください。

これらのファイルを利用すれば、組版 ROBO4 と併用して名刺等の面付けや複数ページに渡る処理も一括してできます。なお、データベースのデータで連続変換出力する場合には、チュートリアル編およびリファレンス編の「組版 ROBO > レコード順次取り込み配列」のセクションをご覧ください。

一方、プリセットメニューでもテンプレートを用意しておりますが、各キャリアの仕様に則ったタグやエスケープ文字が混在しているためデータの編集をパレット内で行うことはお勧めしません。したがってプリセットメニューで入ってくるデータはダミーでしかありません。符号化するデータだけ上記ファイルで自動フォーマットしたものをコピー＆ペーストで入れ替えてご使用ください。

docomo	au	SoftBank
電話帳登録	アドレス帳一括入力	メモリダイヤラー一括登録
メール連携	メール送信データ自動挿入	メールリンク
ブックマーク登録	URL to	Webリンク
	EZナビウォーク連携	
iアプリ連携		

ここでの用語は 2006 年時の各社 HP\* のものを使用しております。

\* 各キャリアの情報に関してはそれぞれ次の URL のものを参照してください。（2017 年 10 月現在）

docomo: <https://www.nttdocomo.co.jp/service/developer/make/content/barcode/index.html>

au: [http://www.au.kddi.com/ezfactory/tec/two\\_dimensions/index.html](http://www.au.kddi.com/ezfactory/tec/two_dimensions/index.html)

▶ バーコード ROBO4 > QR コード > 特殊キャラクタの表記規則

■ 制御コードの表記法

QR コードパレットの入力用制御コード・リストから選んで入力するか、リストにある <...>（すべて半角大文字）の記法に従ってタイプ入力します。バーコード ROBO4 の QR コードにおいてのみ有効です。

例：    こんにちは <CR><LF> はじめまして  
         「こんにちは」と「はじめまして」の間に復帰改  
行コードを入れて符号化します。  
以下に代表的な制御コードを挙げます。

<CR>	復帰
<LF>	改行
<HT> または <TAB>	タブ

他の制御コードについては、一般の JIS または ASCII コード表で使用されている略記を <と> で囲んだものになっています。入力用制御コード・リスト中、括弧内にある表記も使用できます。

なお、データ入力欄内の実改行は内部的に <CR><LF> または <CR> または <LF> と見なされます。どれになるかはカスタマイズ欄の「改行の制御コード」の設定によります。従ってパレットへの「符号化するデータ」入力時に特にこの表記を挿入する必要はありません。ただ入力欄の右の折り返しが改行によるものかどうかの判別を明確にしたい場合などには、キーによる実改行は入れずにこの記述法を利用してください。

この表記方法は、組版 ROBO4 と併用して外部データを一括して QR コード変換する際に特に有用です。

■ Shift-JIS 2 バイト文字の 16 進数による表記法

これは主にプラットフォーム間で異なって復号されたり、外字領域に当てられている Shift-JIS 2 バイト文字を 16 進数表記で指定するために用意されています。バーコード ROBO4 の QR コードにおいてのみ有効です。すべて半角文字で <と> の間に 4 桁の 16 進数値を置きます。

数値の直後に (; セミコロン) を置き、任意のコメントを挿入することもできます。コメントには全角文字も使用できます。16 進数が何に復号させることを意図してい

るかを記しておくくと便利です。16 進数値だけが符号化されます。ただし、Shift-JIS 2 バイト文字領域から外れたコードは表記のままの文字データとして扱われます。

例：    <F89F>  
  
         または  
  
         <F89F; ドコモ晴れ>  
         F89F の 2 バイトとして符号化されます。

【注意】一般にプラットフォーム間で異なる扱いを受ける文字種の使用はお勧めできません。特に汎用途でオープンな環境では使用しないでください。

■ コメントの表記法

これは符号化するデータについての注釈などをデータとともに保存するために用意されています。この部分は符号化から除外されます。バーコード ROBO4 の QR コードにおいてのみ有効です。半角の <と>; (セミコロン) で始め、コメント内容を記述し、半角の > で終わります。コメント内容には全角文字も使用できます。

例：  
      アマデウス <; モーツァルト> とサリエリ  
      「アマデウスとサリエリ」だけが符号化されます。

■ エスケープ表記法

上記の制御コード表記や Shift-JIS 2 バイトコード表記、およびコメント表記そのものを文字データとして符号化するには、各開始キャラクタ <のあとに適当なコメント表記を入れます。(空文字のコメント表記 <;> が簡潔です。)

例 1：       <<;>CR> <<; えすけーぶ>CR>  
どちらも " 復帰 " を表す制御コードではなく、文字 <CR> そのものが符号化されます。

例 2：       <<;>F89F>

2 バイト 16 進コード F89F ではなく、文字 <F89F> そのものが符号化されます。

▶ バーコード ROB04 ＞ マイクロ QR コード

QR (Quick Response) コードは日本の株式会社デンソーウェーブが開発したマトリクス型の二次元バーコード・シンボルですが、印字占有面積を抑えるために新たに追加開発されたモデルがマイクロ QR コードです。QR コードと同じく JIS X 0510 で規格化されています。



< 図 .1 >

パレット項目について

◎ 誤り訂正レベル：(ポップアップ)

誤り訂正レベルを指定します。L,M,Q の順にシンボルの損傷に対する復元能力は高まりますが、その分同じサイズのシンボル内に納められるデータ量は減少します。またバージョン (型番):M1 は誤り検出のみで訂正能力は無く、M2 と M3 は L または M を選択でき、M4 は L,M,Q を選択できます。

◎ バージョン (型番): (ポップアップ)

バージョン (型番) を選びます。通常は自動判別においてください。特定のバージョンを選ぶと符号化するデータ量によってバージョンを調節する必要があります。

※組版 ROB04 との併用によって外部データ取り込む際、データ量がまちまちだがサイズを統一したい場合に、取り込みデータ中最大のもの (あるいは大きめに見込んだもの) に合わせたバージョンのシンボルを取り込み口にしてください。ただし万ーデータサイズが大きすぎる

ものが渡されるとその分の出力処理は飛ばされます。(固定バージョンを指定しておいて、「連結数:」を自動分割としておく方法もあります。)

◎ モード：(ポップアップ)

自動判別、数字、英数字、8 ビットバイト、漢字、混在モードの中から選択できますが、通常は自動判別を指定してください。自動判別モードはモード混在時にも、混在モードと同様、できるだけ小さいシンボルになるようなモードチェンジをおこないます。

CS6, CC 用では UTF-8 モードがあります。

◎ データ：

データ入力には次の 2 通りの方法があります。

- (1) 自由編集
- (2) ファイルから読み込み ...

(1) は自由形式でデータ欄に入力する際に使います。外字コード等の表記方法は別セクションをご覧ください。

(2) は外部ファイル (モード対応のテキスト形式) の内容をデータ欄に読み込むことができます。その際、制御コードなどはすべて自動的に代替表記 (「入力用制御コード:」ポップアップリストの表記) に置き換えられます。

※データベースのデータで連続変換出力する場合には、「組版 ROBO ＞レコード順次取り込み配列」などを併用してください。

◎ データ：入力用制御コード：(ポップアップ)

各種制御コードを入力するには、「データ:」欄中の目的の位置にカーソルを置き、このポップアップからコードを選択してください。同じ書式であれば手入力しても構いません。

◎ 符号化データ数／現モードでの許容数：

現モードでのデータ許容数に対する符号化するデータ数、およびその時のバージョン (型番) と連結モード時の分割数を括弧内に表示します。データ数は 1 半角文字や制御コードを 1、1 全角文字や外字コード (別セクション参照) は 2 とカウントします。

◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するためのフレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ モジュールサイズ (mm):

シンボルを構成するモジュールの 1 辺のサイズを指定します。(図 .2 参照)

◎ モジュールの全幅 (mm) × 全高 (mm):

余白を確保するためのフレームの全幅 × 全高。

◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

◎ 作成／再生 (ボタン)

バーコードを作成／バーコードを再生 →チュートリアル編

◎ 余白モジュール数：

フレームとシンボル間にある余白をモジュール数で指定します。(図 .2 参照)

JIS X 0510 では、最小モジュール数は 4 とされています。

◎ モジュールの補正值 (1/1000mm):

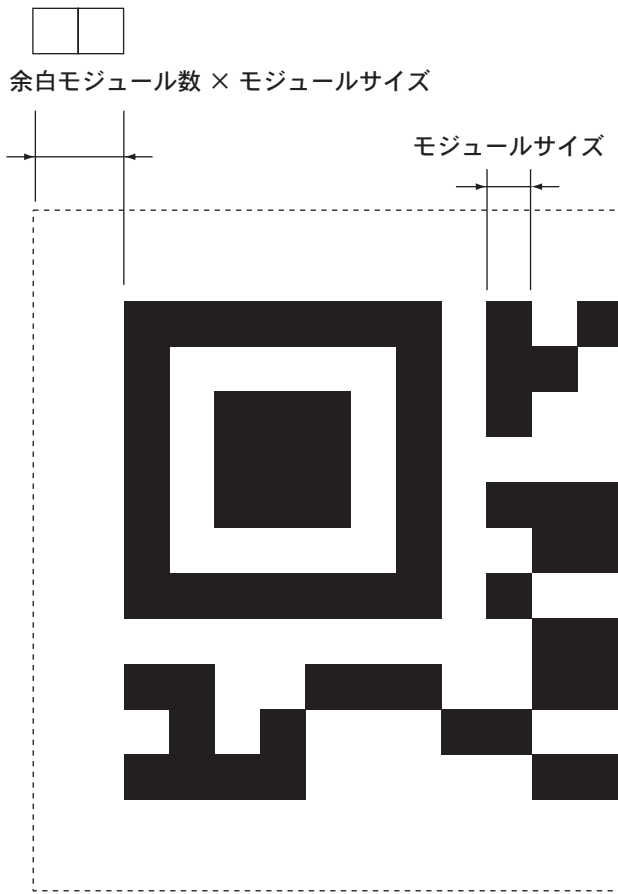
1/1000 mm (ミクロン) 単位で指定して下さい。 →チュートリアル編

◎ 改行の制御コード：(ポップアップ)

データ欄に実改行を入れた時の改行コードの扱い方を指定します。この指定は、「ファイルから読み込み」ボタンで外部ファイルを取り込んだ時の改行コードの表記変換にも適用されます。データの表記規則については「バーコード ROB04 ＞ QR コード ＞ 特殊キャラクタの表記規則」のセクションをご覧ください。

◎ マスクパターン：(ポップアップ)

通常は自動判別を選択しておいてください。複合効率を妨げるようなモジュールの配置が現れるのを最小限に抑えるために JIS X 0510 の評価基準に従い最適なマスクパターンが選択されます。



< 図 .2 >



## ▶ バーコード ROB04 > Data Matrix (ECC 200)

※ Illustrator CS6 以降用で利用できます。

Data Matrix (データマトリックス) は、マトリックスシンボル体系の二次元シンボルです。日本ではデータコードと呼ばれることもあります。

Data Matrix の ECC 200 バージョンおよび GS1 Data Matrix シンボルを作成することができます。

JIS X 0512 で規格化されています。



< 図 .1 >

パネル (パレット) 項目について

### ◎ シンボル形状: (ラジオボタン)

正方形シンボルか長方形シンボルかを選択をします。この選択により次項の「シンボルサイズ:」の選択肢も変わります。

### ◎ シンボルサイズ: (ポップアップ)

シンボルの「縦モジュール数 x 横モジュール数」でサイズを選択します。通常は「自動判別」を選んでください。データ量にあわせた最小サイズのシンボルになります。

### ◎ 符号化スキーム: (ポップアップ)

データを符号化際のスキームを選択します。通常は「自動切替」を強くお勧めします。圧縮率が最も高くなり、前項の「自動判別」とあわせてシンボルサイズが最小になります。

### ◎ GS1 Data Matrix (チェックボックス)

GS1 データをシンボル化する場合に選択してください。一般にアプリケーション識別子 AI の (01) に続けて GTIN\* の 14 桁の数字から入力します。末尾の 14 桁目はチェックデジットですので、省略したり誤った数字が指

定されても追加または正しいもので出力されます。通常この後にも別の AI 部が続きます。

各アプリケーション識別子 AI は ( ) などで囲むか、データ領域との間にスペースを入れてください。AI の区切りキャラクタは符号化されません。

\*GTIN=Global Trade Item Number (国際取引商品コード)

### ◎ データ:

データを入力します。データ文字のうち「符号化除外文字:」欄のものはシンボル化から除外されます。

### ◎ データ: 出力 (チェックボックス)

バーコードシンボルにデータ文字を並記します。書体や表示位置などは「詳細設定」項目で指定できます。JIS X 0512 では特に定められていません。

### ◎ データ: 符号化除外文字:

データ欄に入力する文字のうち、バーコードシンボル化から除く文字を指定します。ただし、前項「出力」選択時には符号化除外文字もデータ文字としては出力されます。

### ◎ 符号化データ使用率:

シンボルサイズに対するデータの使用率を表示します。ただし指定のシンボルサイズを超える場合には、「?」が並記され「作成/再生」ボタンは使用できません。また選択中のシンボルもライブアップデートされません。

### ◎ データ: 入力用制御コード: (ポップアップ)

「GS1 Data Matrix」チェックボックスが非選択の場合に有効です。各種制御コードを入力するには、「データ:」欄中の目的の位置にカーソルを置き、このポップアップからコードを選択してください。同じ書式であれば手入力しても構いません。

### ◎ 文字をアウトライン化 (チェックボックス)

データ文字をアウトライン (パス) 化するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 背景透過 (チェックボックス)

余白を確保するための矩形フレーム (パス) の背景を透過 (塗り色無しに) するかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 明暗暗転 (チェックボックス)

シンボルの明部と暗部を反転したものを出力します。

### ◎ モジュールサイズ (mm):

シンボルを構成するモジュールの 1 辺のサイズを指定します。(図 .2 参照)

### ◎ シンボルの全幅 (mm) × 全高 (mm):

余白を確保するためのフレームの全幅 × 全高のサイズを表示します。

### ◎ ライブ (チェックボックス)

作成または再生時にライブアップデートするかどうかを制御します。 →チュートリアル編

### ◎ 作成/再生 (ボタン)

バーコードを作成/バーコードを再生を実行します。 →チュートリアル編

### ◎ 余白モジュール数:

フレームとマトリックスシンボル間にある余白をモジュール数で指定します。(図 .2 参照)  
JIS X 0512 では、2 ~ 4 が推奨されています。

### ◎ モジュールの補正值 (1/1000mm):

1 単位 = 1000 分の 1 mm (1 ミクロン)。マイナス値で縮小します。  
→チュートリアル編

### ◎ 文字: フォント: (ポップアップ)

データ文字のフォントを指定します。JIS X 0512 では特に定められていません。(以下同)

### ◎ 文字: サイズ (pt):

データ文字のサイズを指定します。

### ◎ 文字: サイズ (pt): 標準 (ボタン)

データ文字の標準的なサイズとして、フォントと文字領域サイズをもとにした計算値がサイズ欄に入力されます。

### ◎ 文字: 揃え: (ポップアップ)

データ文字をシンボル 4 辺のどの位置に出力するかを (4 x 3 = 12 通りから) 指定します。

### ◎ 文字: 水平垂直オフセット:

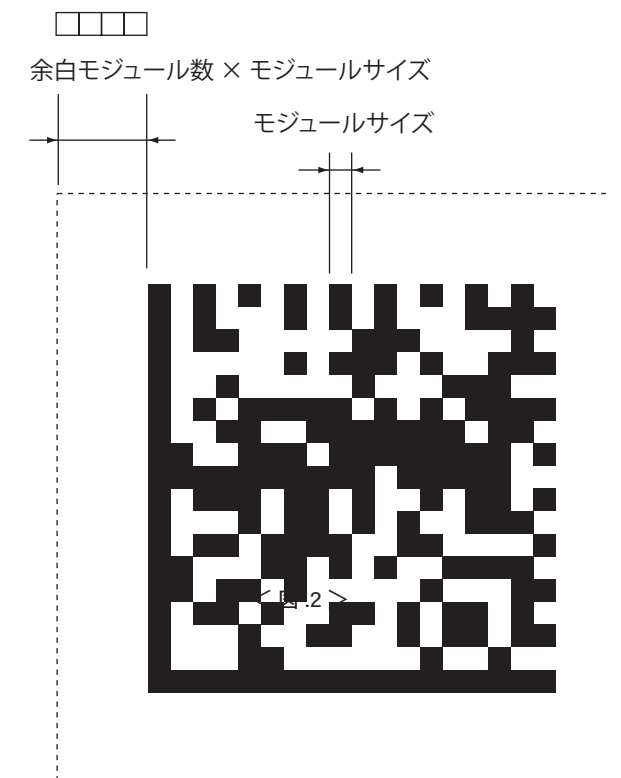
データ文字の「揃え:」の各基点からの水平垂直方向のズレを指定します。

### ◎ 文字: トラッキング (em/1000):

データ文字のトラッキング値を em/1000 単位で指定します。

### ◎ 文字: 行方向比率 (%):

データ文字の行方向の比率を指定します。



## ▶ バーコード ROBO4 > チェックデジットについての補足

ここでは、バーコード ROBO4 のチェックデジットオプションにおける計算方式のうちウェイトの掛け方を表記してあるものについて説明します。

### ■ モジュラス 10/ ウェイト 2,1( 分割 )

先ずデータの各桁を独立した一桁の数値とみなす。  
データ右端の数値から左方向へ順にウェイトとして 2, 1, 2, 1, ... と掛けて、それぞれ十の位と一の位の数字をすべて加算する。(「分割」の意味は位を分けることから)  
その総和の一の位が 0 ならチェックデジットは 0、そうでなければそれを 10 から引いた値がチェックデジットです。

### ■ モジュラス 10/ ウェイト 2,1( 一括 )

先ずデータの各桁を独立した一桁の数値とみなす。  
データ右端の数値から左方向へ順にウェイトとして 2, 1, 2, 1, ... と掛けて、それぞれをすべて加算する。(「一括」の意味は位を分けないことから)  
その総和の一の位が 0 ならチェックデジットは 0、そうでなければそれを 10 から引いた値がチェックデジットです。

### ■ モジュラス 10/ ウェイト 3,1

先ずデータの各桁を独立した一桁の数値とみなす。  
データ右端の数値から左方向へ順にウェイトとして 3, 1, 3, 1, ... と掛けて、それぞれをすべて加算する。  
その総和の一の位が 0 ならチェックデジットは 0、そうでなければそれを 10 から引いた値がチェックデジットです。

### ■ モジュラス 11/ ウェイト 2~7

先ずデータの各桁を独立した一桁の数値とみなす。  
データ右端の数値から左方向へ順にウェイトとして 2, 3, 4, 5, 6, 7, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 2, 3, ... (2~7 の繰り返し) と掛けて、それぞれをすべて加算する。  
その総和を 11 で割った余りを求める。  
その余りが 0 ならチェックデジットは 0、余りが 1 の場合は欠番とし、そうでなければその余りを 11 から引いた値がチェックデジットです。

### ■ モジュラス 11/ ウェイト 1,2,3...

先ずデータの各桁を独立した一桁の数値とみなす。

データ右端の数値から左方向へ順にウェイトとして 1, 2, 3, 4, 5, ... と掛けて、それぞれをすべて加算する。  
その総和を 11 で割った余りを求める。  
その余りが 0 ならチェックデジットは 0、余りが 1 の場合は欠番とし、そうでなければその余りを 11 から引いた値がチェックデジットです。

**【注意】**チェックデジット・オプション（バーコード種による）で「モジュラス 11」系を選んだ場合には計算方法の特質上、欠番が生ずることがあります。特に連番出力の際にはご注意ください。

## ▶ バーコード ROB04 > バーコードを印刷する際の注意

ここでは印刷時に特に注意していただきたい事柄について述べます。

### ■ 黒バー幅の補正值について

「黒バー幅の補正」とは、いわゆる BWR（Bar Width Reduction）のことで、これは実際の製版や印刷の過程でバー幅の理論値＋許容誤差を保つことが困難な場合に設定する項目です。フレキソ印刷時などに必要となる項目です。

例えば最終仕上がりの太りを考慮してあらかじめ全黒バー幅を 60 ミクロン（0.06mm）だけ細くしておきたいときには「-60」と入力します。このとき結果として全白バー（地模様）幅は 60 ミクロン（0.06mm）だけ太くなります。

ただし、これはあくまでも計算値であり、フィルムマスター段階での精度はイメージセッターの出力解像度に左右されます。

なお、一般のレーザープリンターによる出力でも補正なしでスキャナによる読みとりは十分可能です。しかし、その出力を版下などに使用することはお勧めできません。

### ■ 作成後の拡大縮小について

Illustrator のツールによるバー幅（パスによる線幅）に影響が及ぶ拡大縮小は避けてください。

集版ソフト上での拡大縮小は避けてください。

製版カメラによる拡大縮小は避けてください。

### ■ その他のご注意

当ソフトウェアで作成するバーコードは Illustrator のパスのみまたはパスとテキストで構成されたオブジェクトです。それゆえ非常にデリケートです。書類上の移動などの操作は必ず選択ツール（黒塗り矢印）でおこなってください。ダイレクト選択ツール（白ヌキ矢印）による部分選択による操作はご自身の責任においておこなってください。

また、いずれのバーコードも、正しく読み取るためには左右に最小限決められた余白（マージンまたはクワイエットゾーンとも呼ぶ）が必要です。原則として本ソフトウェアの初期設定値または指定計算値より小さい値を設定しないでください。

CS5 において、オプション属性「新規オブジェクトをピクセルグリッドに整合」が指定されている書類上では

バーコードを作成しないでください。このオプションは新規書類作成時ダイアログウィンドウの「詳細」設定や「変形」パネルの右肩にあるメニューで指定解除できます。

また、CS6 以降においてもバーコード作成後にも Illustrator「変形」パネルにある「ピクセルグリッドに整合」オプション（チェックボックスによる）を指定しないでください。

## ▶ バーコード ROB04 > バーコードを使用する際の注意

社内または個人使用の場合を除き、一般の流通ルートに乗せる商品に JAN コードを付ける際には事前に登録しメーカーコードを取得する必要があります。商工会議所または商工会が、（財）流通システム開発センター／流通コードセンターから委託をうけて登録手続きをおこなっています。また ISBN コードについては日本図書コード管理センターへお問い合わせください。その他のバーコードを使用する際にも関係機関へお問い合わせください。

各機関については「バーコードに関する参考文献など」セクションをご覧ください。

各パネルの初期設定値は、バーコード規格で定められている基本寸法です。変更する場合はご自身の責任においておこなってください。

CS5 において、オプション属性「新規オブジェクトをピクセルグリッドに整合」が指定されている書類上ではバーコードを作成しないでください。このオプションは新規書類作成時ダイアログウィンドウの「詳細」設定や「変形」パネルの右肩にあるメニューで指定解除できます。また、CS6 以降においてもバーコード作成後にも Illustrator「変形」パネルにある「ピクセルグリッドに整合」オプション（チェックボックスによる）を指定しないでください。



## ▶ バーコード ROB04 > バーコードに関する参考文献など

バーコードに関する参考文献や関連情報を得ることができるサイトをご紹介します。  
(2017 年 10 月現在)

### ■ バーコード全般についての情報

Web サイト：一般財団法人 流通システム開発センター  
<http://www.dsri.jp/>

書籍：知っておきたいバーコードの知識（日本工業出版）

Web サイト：株式会社キーエンス  
<http://www.keyence.co.jp/>

Web サイト：一般財団法人 日本規格協会  
<http://www.jsa.or.jp/store/index.html>

次の規格書を購入することもできます。

- ・物流商品コード用バーコードシンボル JIS X 0502 ※ ITF14, 16, 6
- ・バーコードシンボル体系仕様—コード 39 JIS X 0503
- ・バーコードシンボル体系仕様—コード 128 JIS X 0504
- ・バーコードシンボル体系仕様—インタリーブド 2 オブ 5 JIS X 0505
- ・バーコードシンボル—コードバー (NW-7)—基本仕様 JIS X 0506
- ・バーコードシンボル—EAN/UPC—基本仕様 JIS X 0507 ※ JAN13, 8
- ・二次元コードシンボル—QR コード—基本仕様 JIS X 0510
- ・バーコードシンボル体系仕様—G S 1 データバー JIS X 0509
- ・Information technology — Automatic identification and data capture techniques  
-- GS1 DataBar bar code symbology specification  
ISO/IEC 24724
- ・Information technology — Automatic identification and data capture techniques  
-- GS1 Composite bar code symbology specification  
ISO/IEC 24723
- ・Information technology — Automatic identification and data capture techniques  
-- MicroPDF417 bar code symbology specification  
ISO/IEC 24728
- ・バーコードシンボル体系仕様—データマトリックス JIS X 0512

参考：

JIS X 0509 なら「JIS 検索」で規格番号欄に「X0509」と入力して検索します。

ISO/IEC 24724 なら「ISO 検索」で規格番号欄に「24724」と入力して検索します。

### ■ QR コードについての情報

Web サイト：QR Code.com  
<http://www.qrcode.com/>

### ■ 書籍 JAN や日本図書コードについての情報

書籍：コードが変わる出版流通 ISBN のすべて（日本エディタースクール出版部）

Web サイト：日本図書コード管理センター  
<http://www.isbn-center.jp/>

### ■ カスタマバーコードについての情報

日本郵便ホームページ  
<http://www.post.japanpost.jp/>  
郵便番号制マニュアル  
<http://www.post.japanpost.jp/zipcode/zipmanual/index.html>

## 第2章

## 組版 ROBO4

組版 ROBO4 > 連番オブジェクト配列

パレット項目について	(2) リンク配置された画像 画像のファイル名
◎ 単位巾・単位高 : 水平・垂直方向に配列する単位となるオブジェクト・ブロックの幅と高さを指定します。	(3) バーコード ROBO4 のバーコード・シンボル バーコードのデータ
◎ 単位巾・単位高 : 選択対象から取得 : (ボタン) 書類上で選択中のオブジェクトを囲む最小長方形の幅と高さを取得して「単位巾・単位高 :」欄に入力できます。オブジェクト構成を変更したときなど必要に応じてクリックしてください。	いずれも半角数字部を連番要素にできます。 →チュートリアル編
◎ ヨコ空き・タテ空き : 水平・垂直方向にに配列するブロックどうしの隙間を指定します。	◎ ステップデータ : ▼データのひな型を入力 (ボタン) 開始データが表示されているとき、このボタンをクリックすると、開始データの半角数字部を「0」で置き換えたデータが、下のステップデータ欄に入力されます。
◎ ヨコ数・タテ数 : 水平・垂直方向にに配列するブロック数を指定します。	◎ ステップデータ : 連番のステップ値またはステップ値を組み込んだ形式で指定します。 →チュートリアル編
◎ ヨコ数・タテ数 : 4つのアイコンボタン 配列の作成順序を指定します。選択ボタンアイコンのジグザグ矢印で示す順序です。	◎ 「繰り返し連番指定／ノンブル(位置固定、全ページ作成時有効)／ノンブル(奇偶位置切替、全ページ作成時有効)」(ポップアップメニュー) オブジェクトに対して繰り返し要素かページ番号要素かの役割を指定します。 →チュートリアル編
◎ ヨコ数・タテ数 : 配列のアウトライン (チェックボックス) 書類上のオブジェクトを選択した状態でチェックすると、上記の設定に応じたガイドラインが表示されます。オブジェクト構成や位置を変更したときなど必要に応じて再チェックしてください。	◎ 割り当て情報 : 選択中のオブジェクトに本パレットによる割り当てがあれば、この欄にその情報が表示されます。
◎ 全巾・全高 : 上記の設定に応じて配列後の全幅と全高が入りますが、逆にこの全幅・全高値を変えることで、「ヨコ空き・タテ空き :」が変化します。	◎ テキスト自動調整 : (チェックボックス) 「テキスト自動調整」パレットの設定を生かすかどうかを指定します。テキスト・オブジェクトに連番割り当てをセットする際、自動調整を併用するには、このチェックボックスがチェックされていなければなりません。また、自動調整を割り当ててあっても連番実行時にこのチェックを外しておけば自動調整はおこなわれません。 なお、これをチェックしたとき「テキスト自動調整」パレットが本パレットに隣接して表示されます。
◎ 開始データ : 書類上のオブジェクトを選択することで、その要素データがこの欄に表示されます。有効なオブジェクトとその表示内容は次の通りです。	◎ セット (ボタン) 書類上のオブジェクトに対し、リストで選択中のフィールド番号および役割やテキスト自動調整の設定を割り当
(1) テキスト・オブジェクト テキストの内容	

てます。

◎ リセット (ボタン)  
書類上のオブジェクトに対し、本パレットにより割り当てられた設定を解除します。

◎ 連番発生総数 :  
配列実行時に発生させる連番の総数を指定します。「1 ページ分作成」の場合、この値が「ヨコ数・タテ数 :」で指定した横数×縦数に満たなければ途中で終了します。「全ページ作成保存」の場合、この値により総ページ数が決まり、この値が「ヨコ数・タテ数 :」で指定した横数×縦数の倍数でなければ最終ページは途中で終了します。

◎ 1 ページ分作成 (ボタン)  
上記の設定のもとで、現在の書類上で連番オブジェクトを作成します。

◎ 全ページ作成保存 (ボタン)  
上記の設定のもとで、現在の書類をテンプレートとして複数ページ (ファイル) に渡る連番オブジェクトを作成できます。



## 組版 ROBO4 > レコード順次取り込み配列

パレット項目について

### ◎ 単位巾・単位高 :

水平・垂直方向に配列する単位となるオブジェクト・ブロックの幅と高さを指定します。

### ◎ 単位巾・単位高 : 選択対象から取得 : (ボタン)

書類上で選択中のオブジェクトを囲む最小長方形の幅と高さを取得して「単位巾・単位高 :」欄に入力できます。オブジェクト構成を変更したときなど必要に応じてクリックしてください。

### ◎ ヨコ空き・タテ空き :

水平・垂直方向にに配列するブロックどうしの隙間を指定します。

### ◎ ヨコ数・タテ数 :

水平・垂直方向にに配列するブロック数を指定します。

### ◎ ヨコ数・タテ数 : 4つのアイコンボタン

配列の作成順序を指定します。選択ボタンアイコンのジグザグ矢印で示す順序です。

### ◎ ヨコ数・タテ数 : 配列のアウトライン (チェックボックス)

書類上のオブジェクトを選択した状態でチェックすると、上記の設定に応じたガイドラインが表示されます。オブジェクト構成や位置を変更したときなど必要に応じて再チェックしてください。

### ◎ 全巾・全高 :

上記の設定に応じて配列後の全幅と全高が入りますが、逆にこの全幅・全高値を変えることで、「ヨコ空き・タテ空き :」が変化します。

### ◎ 取込ファイルの指定 ... (ボタン)

これをクリックして、タブ区切り、またはコンマ区切り (CSV) のデータベースファイルを指定します。読み込みが成功すると下方にあるリスト欄にデータ内容が表示されます。

なお、一度読み込んだファイルはこのボタンの下のポップアップメニューに登録されますので、次回からはポップアップメニューの選択で簡単に読み込むことができます。

す。

CS6以降用では UTF-8 (ユニコード符号化方式) フォーマットのテキストファイルの読み込みもできます。

「チュートリアル編・改訂同版」の「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」セクションもご覧ください。

### ◎ 「タブ区切り／コンマ区切り」(ポップアップメニュー)

読み込みファイルをタブ区切りとみなすかコンマ区切りとみなすかを指定します。区切りキャラクタごとにパレットのリスト中のエントリが分割します。

### ◎ 開始レコード番号 :

取り込み実行時の開始レコード番号を指定します。右隣りにある4つのアイコンボタンでも操作できます。

なお、この開始レコード番号は取り込み処理が実行されるたびに処理分だけ加算されます。

### ◎ 「繰り返し連番指定／見出しフィールド指定 (改ページ因子) ノンブル (位置固定、全ページ作成時有効)／ノンブル (奇偶位置切替、全ページ作成時有効)」(ポップアップメニュー)

オブジェクトに対して繰り返し要素か見出し要素かページ番号要素かの役割を指定します。

→チュートリアル編

### ◎ テキスト自動調整 : (チェックボックス)

「テキスト自動調整」パレットの設定を生かすかどうかを指定します。テキスト・オブジェクトにデータ取り込み割り当てをセットする際、自動調整を併用するには、このチェックボックスがチェックされていなければなりません。また、自動調整を割り当てであっても取り込み実行時にこのチェックを外しておけば自動調整はおこなわれません。

なお、これをチェックしたとき「テキスト自動調整」パレットが本パレットに隣接して表示されます。

### ◎ セット (ボタン)

書類上のオブジェクトに対し、リストで選択中のフィールド番号および役割やテキスト自動調整の設定を割り当てます。

このボタンをクリックする代わりにリスト欄のフィー

ルドをダブルクリックすることもできます。

### ◎ リセット (ボタン)

書類上のオブジェクトに対し、本パレットにより割り当てられた設定を解除します。

### ◎ 1レコード取込 (ボタン)

上記の設定のもとで、現在選択中の割り当て済みオブジェクトに現在の1レコードを取り込みます。

### ◎ 1ページ分取込 (ボタン)

上記の設定のもとで、現在の書類上で取り込み配列を実行します。

### ◎ 全ページ取込保存 (ボタン)

上記の設定のもとで、現在の書類をテンプレートとして複数ページ (ファイル) に渡る取り込み配列を実行できます。

## ▶ 組版 ROBO4 > レコードちらし取り込み

パレット項目について

### ◎ 取込ファイルの指定 ... (ボタン)

これをクリックして、タブ区切り、またはコンマ区切り (CSV) のデータベースファイルを指定します。読み込みが成功すると下方にあるリスト欄にデータ内容が表示されます。

なお、一度読み込んだファイルはこのボタンの下のポップアップメニューに登録されますので、次回からはポップアップメニューの選択で簡単に読み込むことができます。

CS6 以降用では UTF-8 (ユニコード符号化方式) フォーマットのテキストファイルの読み込みもできす。

「チュートリアル編・改訂同版」の「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」セクションもご覧ください。

### ◎ 「タブ区切り／コンマ区切り」(ポップアップメニュー)

読み込みファイルをタブ区切りとみなすかコンマ区切りとみなすかを指定します。区切りキャラクタごとにパレットのリスト中のエントリが分割します。

### ◎ レコード番号：

割り当て対象のレコード番号を指定します。右隣りにある 4 つのアイコンボタンでも操作できます。

### ◎ 割り当て済みレコード番号変更 (ボタン)

既に一括取り込みのために割り当ててある 1 つ以上のオブジェクトに対し、レコード番号だけを「レコード番号：」とリストで表示されているものに付け替えることができます。

→チュートリアル編

### ◎ テキスト自動調整；(チェックボックス)

「テキスト自動調整」パレットの設定を生かすかどうかを指定します。テキスト・オブジェクトにデータ取り込み割り当てをセットする際、自動調整を併用するには、このチェックボックスがチェックされていなければなりません。また、自動調整を割り当てあっても取り込み実行時にこのチェックを外しておけば自動調整はおこなわれません。

なお、これをチェックしたとき「テキスト自動調整」

パレットが本パレットに隣接して表示されます。

### ◎ セット (ボタン)

書類上のオブジェクトに対し、リストで選択中のレコードのフィールド番号やテキスト自動調整の設定を割り当てます。

このボタンをクリックする替わりにリスト欄のフィールドをダブルクリックすることもできます。

### ◎ リセット (ボタン)

書類上のオブジェクトに対し、本パレットにより割り当てられた設定を解除します。

### ◎ 一括取込 (ボタン)

上記の設定のもとで、現在の書類上で取り込みを実行します。

## ▶ 組版 ROBO4 > レコード逐一取り込み

パレット項目について

### ◎ 取込ファイルの指定 ... (ボタン)

これをクリックして、タブ区切り、またはコンマ区切り (CSV) のデータベースファイルを指定します。読み込みが成功すると下方にあるリスト欄にデータ内容が表示されます。

なお、一度読み込んだファイルはこのボタンの下のポップアップメニューに登録されますので、次回からはポップアップメニューの選択で簡単に読み込むことができます。

CS6 以降用では UTF-8 (ユニコード符号化方式)

フォーマットのテキストファイルの読み込みもできす。

を指定します。テキスト・オブジェクトにデータ取り込み割り当てをセットする際、自動調整を併用するには、このチェックボックスがチェックされていなければなりません。また、自動調整を割り当てであっても取り込み実行時にこのチェックを外しておけば自動調整はおこなわれません。

なお、これをチェックしたとき「テキスト自動調整」パレットが本パレットに隣接して表示されます。

「チュートリアル編・改訂同版」の「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」セクションもご覧ください。

### ◎ 「タブ区切り／コンマ区切り／改行区切り」(ポップアップメニュー)

読み込みファイルをタブ区切りとみなすかコンマ区切りとみなすか改行区切りとみなすかを指定します。区切りキャラクタごとにパレットのリスト中のエントリが分割します。

### ◎ レコード番号／ページ番号：

項目名は、「タブ区切り」か「コンマ区切り (CSV)」の場合は「レコード番号」に、「改行区切り」の場合は「ページ番号」に変わります。右隣りにある 4 つのアイコンボタンでも操作できます。

ページ番号の場合はリストの「表示行数」入力欄が表示されます。

### ◎ (リスト)

書類上にある有効なオブジェクトを選択し、リスト欄の各エントリをダブルクリックすると取り込みがおこなわれます。 →チュートリアル編

### ◎ テキスト自動調整；(チェックボックス)

「テキスト自動調整」パレットの設定を生かすかどうか



## ▶ 組版 ROBO4 > テキスト自動調整

### パレット項目について

#### ◎ トラッキングの許容範囲 (em/1000):

許容するトラッキングの最小値と最大値を指定します。

#### ◎ エリア内テキストについて: 「トラッキングのみによる／行方向比率変更も加味する／列方向比率変更も加味する／フォントサイズ変更も加味する」(ポップアップメニュー)

トラッキングによる調整が最優先ですが、「～も加味する」を選ぶとトラッキングの許容範囲で調整し切れない場合に～も加味されます。

#### ◎ エリア内テキストについて: 行送り (%):

上記設定で「列方向比率変更も加味する」を選んだ場合の文字サイズに対する行方向比率を指定します。

#### ◎ エリア内テキストについて: あふれた場合のみ適用 (チェックボックス)

これがチェックしてあると、エリア内に文字が納まっている場合には何もしません。

#### ◎ パス上テキストについて: 「トラッキングのみによる／行方向比率変更も加味する／フォントサイズ変更も加味する」(ポップアップメニュー)

トラッキングによる調整が最優先ですが、「～も加味する」を選ぶとトラッキングの許容範囲で調整し切れない場合に～も加味されます。

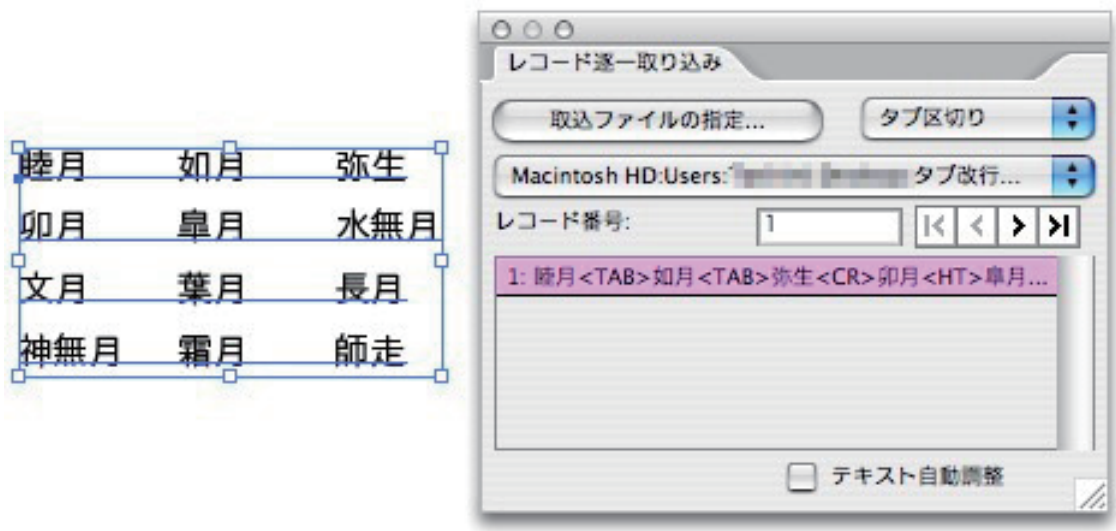
#### ◎ パス上テキストについて: あふれた場合のみ適用 (チェックボックス)

これがチェックしてあると、パス上に文字が納まっている場合には何もしません。

#### ◎ 現在の選択テキストに適用 (ボタン)

このボタンによって、組版 ROBO4 の連番配列や取り込み処理での併用だけでなく、書類上で選択された 1 つ以上のエリア内テキストまたはパス上テキストに対して単独適用することができます。

組版 ROBO4 > 取り込みデータの特特殊キャラクタの表記規則



■ 制御コードの表記法

タブや改行を取り込みデータに含めることができます。上図はその実例です。

例： こんにちは <CR> はじめまして  
「こんにちは」と「はじめまして」の間に改行コードを入れて符号化します。  
以下に代表的な制御コードを挙げます。

<CR>	改行
<HT>	タブ
<TAB>	(同じく) タブ

他の制御コードについては、一般の JIS または ASCII コード表で使用されている略記を < と > で囲んだものになっています。

【注意】原則として上記以外の制御コードは使用しないでください。Illustrator 書類上でどのような結果を招くかわかりません。

【参考】Excel でのセル内改行は、「タブ区切り」または「コンマ区切り」(CSV) 形式で書き出すとすべて実改行になります。セル内改行部分を取り込み時に反映させたい場合は、「<CR>」表記に書き換えまたは置き換えたファイルを作成した上でご利用ください。

■ Shift-JIS 2 バイト文字の 1 6 進数による表記法

これは主にプラットフォーム間で異なって復号されたり、外字領域に当てられている Shift-JIS 2 バイト文字を 16 進数表記で指定するために用意されています。組版 ROBO4 においてのみ有効です。すべて半角文字で < と > の間に 4 桁の 16 進数値を置きます。

数値の直後に (; セミコロン) を置き、任意のコメントを挿入することもできます。コメントには全角文字も使用できます。16 進数が何に復号させることを意図しているかを記しておくくと便利です。16 進数値だけが符号化されます。ただし、Shift-JIS 2 バイト文字領域から外れたコードは表記のままの文字データとして扱われます。

例： <F89F>  
または  
<F89F; ドコモ晴れ >  
F89F の 2 バイトとして符号化されます。

【注意】一般にプラットフォーム間で異なる扱いを受ける文字種の使用はお勧めできません。特に汎用途でオープンな環境では使用しないでください。

※ CS6 以降用では UTF-8 (ユニコード符号化方式) フォーマットのテキストファイルにも対応しております。

■ コメントの表記法

これは取り込みデータについての注釈などをデータとともに保存するために用意されています。この部分は符号化から除外されます。組版 ROBO4 においてのみ有効です。半角の < と ; (セミコロン) で始め、コメント内容を記述し、半角の > で終わります。コメント内容には全角文字も使用できます。

例： アマデウス <; モーツァルト > とサリエリ  
「アマデウスとサリエリ」だけが符号化されます。

■ 制御コード表記時のエスケープ表記法

上記の制御コード表記や Shift-JIS 2 バイトコード表記、およびコメント表記そのものを文字データとして符号化するには、各開始キャラクタ < のあとに適切なコメント表記を入れます。(空文字のコメント表記 <;> が簡潔です。)

例 1： <<;>CR> <<; えすけーぷ >CR>  
どちらも " 復帰 " を表す制御コードではなく、文字 <CR> そのものが符号化されます。  
例 2： <<;>F89F>  
2 バイト 16 進コード F89F ではなく、文字 <F89F> そのものが符号化されます。

■ ダブルクォーツ (") やコンマの表記法

単一のダブルクォーツは外されます。ダブルクォーツ自体を取り込む場合には重ねて入力してください。また、「コンマ区切り」(CSV) 形式においてコンマ自体を取り込む場合にはダブルクォーツで囲ったフィールド内に置いてください。

例 1： "" こんにちは ""  
" こんにちは " がフィールド内容となります。  
例 2： "abc, def",xyz  
「コンマ区切り」(CSV) 形式でも abc の次のコンマはフィールド内容として扱われます。

■ 2 つのパートから成るバーコードデータの表記法

2 つのパートから成るバーコードデータをバーコードオブジェクトに取り込む場合には、2 つのデータをアンパサンドで連結してください。

例： 490123456789&12345  
第 1 データ 490123456789 と第 2 データ 12345 とを連結します。

もし第 1 データ内にアンパサンド自体を込めたい場合にはアンパサンドを重ねて入力してください。

例： (01)90012345678908(10)A&&B(90)12BCR41  
第 1 データ (01)90012345678908(10)A&B と第 2 データ (90)12BCR41 とを連結します。

第3章

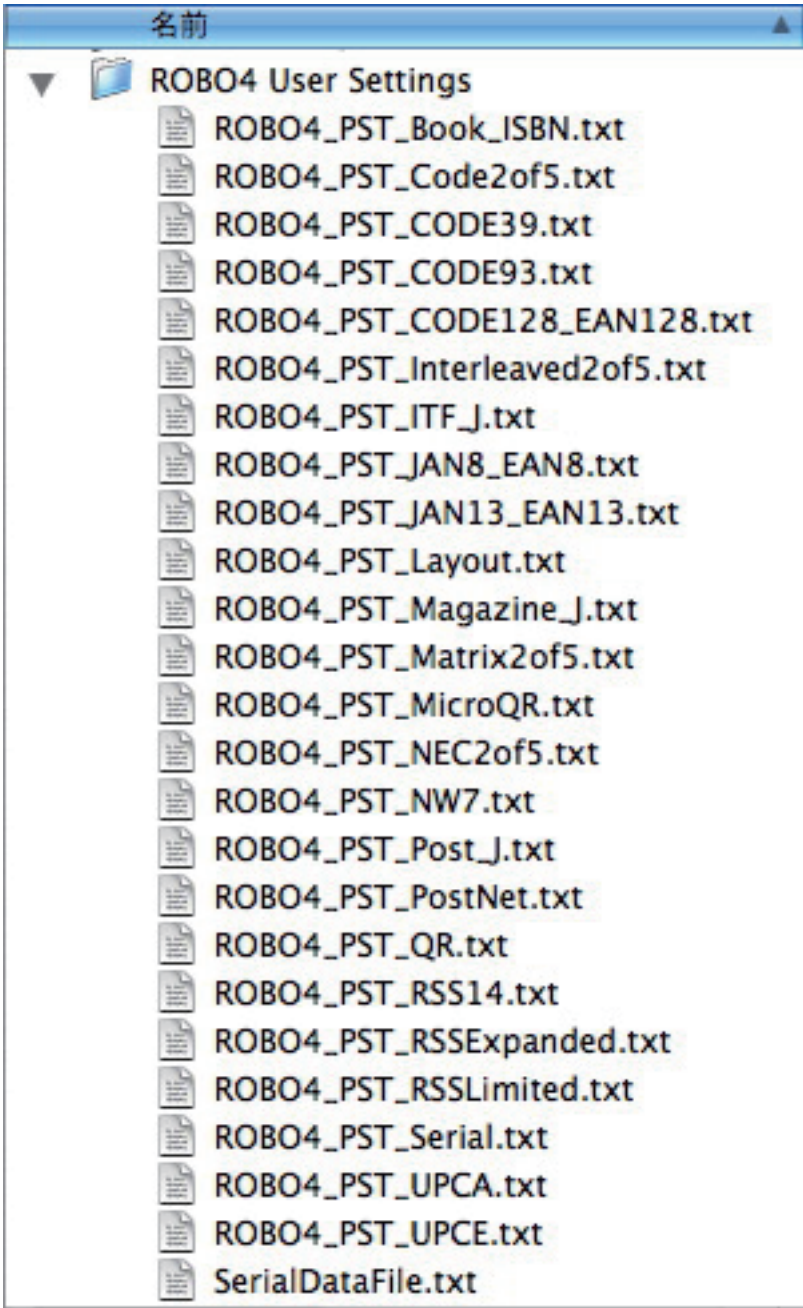
プリセット・メニュー

※バーコード ROBO4 /組版 ROBO4 共通

▶ プリセット・メニュー > 保存ファイルについての詳細情報

「ROBO4 User Settings」フォルダの内容：

※ CS6以降用の「ROBO4 User Settings 2012」フォルダの内容は一部異なります。またパッケージによっては、個別の追加ファイルを含む場合があります。



**【注意】**「ROBO4 User Settings」フォルダと「ROBO4 User Settings 2012」フォルダとの間では直接ファイルの交換はしないでください。必ずプリセットパネルのインポート／エクスポート機能によってください。

プリセット・ファイルは「ROBO4 User Settings」フォルダまたは「ROBO4 User Settings 2012」（CS6 以降用）フォルダ内に保存されるテキストファイル（拡張子 .txt）です。

「ROBO4 User Settings」フォルダまたは「ROBO4 User Settings 2012」フォルダは ROBO4 をインストールした Illustrator の初回起動時に次の位置に作成されます。

- ・ Mac 版 Illustrator 10 以降の場合： ユーザごとの「書類（Documents）」フォルダ内
- ・ Mac 版 Illustrator 8/9 の場合： Illustrator の「プラグイン」フォルダの「ROBO4\_89」フォルダ内
- ・ Windows Vista 以降の場合： ユーザごとの「ドキュメント（Documents）」フォルダ内
- ・ Windows XP 以前の場合： ユーザごとの「マイ ドキュメント（My Documents）」フォルダ内

プリセットの使い方についてはチュートリアル編の「プリセット・メニュー」セクションをお読みください。

● 組版 ROBO4 での各パレットとプリセットファイルの関係

連番オブジェクト配列	ROBO4_PST_Serial.txt
レコード順次取り込み配列	ROBO4_PST_Layout.txt
レコードちらし取り込み	<ありません>
レコード逐一取り込み	<ありません>
テキスト自動調整	<ありません>

● バーコード ROBO4 での各パレットとプリセットファイルの関係（組版 ROBO4 単体製品では未使用）

JAN13 (EAN13), アドオン	ROBO4_PST_JAN13_EAN13.txt
JAN8 (EAN8), アドオン	ROBO4_PST_JAN8_EAN8.txt
UPC A, アドオン	ROBO4_PST_UPCA.txt
UPC E, アドオン	ROBO4_PST_UPCE.txt
書籍 JAN, 日本図書コード	ROBO4_PST_Book_ISBN.txt
共通雑誌コード	ROBO4_PST_Magazine_J.txt
コーダバー (NW-7)	ROBO4_PST_NW7.txt
CODE39 標準, フルセット	ROBO4_PST_CODE39.txt
GS1-128 (UCC/EAN128), CODE128	ROBO4_PST_CODE128_EAN128.txt
CODE11	ROBO4_PST_CODE11.txt
CODE93	ROBO4_PST_CODE93.txt
物流商品コード (ITF), アドオン	ROBO4_PST_ITF_J.txt
Interleaved 2 of 5	ROBO4_PST_Interleaved2of5.txt
Code 2 of 5 (Industrial 2 of 5)	ROBO4_PST_Code2of5.txt
Matrix 2 of 5	ROBO4_PST_Matrix2of5.txt
NEC 2 of 5	ROBO4_PST_NEC2of5.txt
MSI (Plessey)	ROBO4_PST_MSIPlessey.txt
郵便カスタマ	ROBO4_PST_Post_J.txt
PostNet	ROBO4_PST_PostNet.txt
GS1 データバー タイプ 1, CC-A/B	ROBO4_PST_RSS14.txt
GS1 データバー タイプ 2, CC-A/B	ROBO4_PST_RSSLimited.txt
GS1 データバー タイプ 3, CC-A/B	ROBO4_PST_RSSExpanded.txt
QR コード	ROBO4_PST_QR.txt
マイクロ QR コード	ROBO4_PST_MicroQR.txt
Data Matrix (ECC 200)	ROBO4_PST_DataMatrix.txt （CS6 以降用）



## 第 4 章

## サポートなど

※バーコード ROBO4 /組版 ROBO4 共通

## ▶ サポートなど > FAQ（よくある質問と答え）

■ Illustrator のメニューにバーコード ROBO4 / 組版 ROBO4 のメニューが現れない。

インストールに失敗している可能性があります。Illustrator のバージョンとミスマッチしている恐れもありますので、まず付属の「CS6 / CC-CC2018 用インストール方法 .pdf」の「使用の一時停止または削除手順」または「CS5 以前用インストール方法 .pdf」の「アンインストール手順」をお読みの上、必要なら「ROBO4\_XXX」（XXX は Illustrator のバージョン表記）フォルダを取り除いてください。その後、あらためて上記書類のインストール手順に従ってインストールし直してください。

■ 同一 OS の同一 Illustrator のバージョンで、これまで使っていた機能が突然使えなくなった。または正常に動作しなくなった。

何らかの原因でインストールされたファイルが破損したり削除されている恐れがあります。再度インストールください。

その際には必ず付属の「CS5 以前用インストール方法 .pdf」または「CS6 / CC-CC2018 用インストール方法 .pdf」ファイルの手順に従ってください。

必要な場合は最新版 ROBO4 にアップデートをしてください。

■ バーコード ROBO4 / 組版 ROBO4 のバージョンの確認方法は？

ROBO4 のプリセット・メニューから確認できます。例えば、組版 ROBO4 の「連続オブジェクト配列」パネルの右肩のメニュー（プリセット・メニュー）最下段項目の「このプラグインについて ...」を選んでください。ROBO4 のアバウト画面が表示されますので、その中のバージョン表記をご覧ください。

■ 共通雑誌コードを作ろうとすると「雑誌」の漢字表記が化ける。

バーコード ROBO4「共通雑誌コード」作成機能では、

漢字の部分（ここでは「雑誌」）にデフォルト和文フォントを自動的に割り当てます。お使いの環境によっては、この割り当てが上手くいかず、欧文フォントが割り当てられ、文字化けしてしまうことがあります。文字化けしてしまった場合は、以下の作業をお試し下さい。

共通雑誌コードパレットの詳細設定ボタン（標準パレット左下の三角形アイコン）をクリックします。

パレットが拡大しますので、中段にあるポップアップメニューを「雑誌コード文字」に切り替えます。

表示内容が変わりますので、フォントのポップアップメニューから適当な和文フォントを選びます。

■ ISBN コードを作ろうとすると円マークが表記できない。

CS5 以前用においては、バーコード ROBO4 で OCR-B フォント指定で ISBN コードを作成する際、「¥」の代替キャラクタとして「Y」を使用し、コード作成時に「¥（実際は横棒が 1 本の「欧文フォントの円表記）」に変換しています\*。しかし一部の国産 OCR-B フォントには、本来の欧文フォント「バックスラッシュ（スラッシュの反対向き）」ではなく、和文フォントと同様に「¥」を割り当てているものがありますので、その場合は通常の「¥」を入力してください。

【参考】もし半角「¥」を直接入力出来ない場合は、他所で入力したものをコピー＆ペーストしてください。

\*CS5 以前用において、半角欧文の円マーク（JIS キーボードのキーにある \ ではない）の文字コードが Mac と Windows とでは異なる環境では Y を代替キャラクタとして使用しています。作成時には円マークに変換されます。

CS6 以降用においては「CS6 / CC-CC2018 用インストール方法 .pdf」ファイルの「CS5 以前用との違い」>「書籍 JAN, 日本図書コードに関して」のページを参照してください。

■ QR コードをピクセルデータとして利用したい。

「Web 用 QR コードの推奨作成方法 .pdf」ファイルをお読みください。

■ 作成した QR コードが読めない。

タイプの設定が「モデル 2」になっているかをご確認ください。

印刷した QR コードが読めない場合は、次の点も考慮して再度バーコード ROBO4 で作成し印刷し直してみてください。

- 1) 「モジュールサイズ」の数値を大きくしてみる。（0.25 mm から 0.33 mm へ変更など）
- 2) より高精度のモードで出力する。
- 3) QR コードを白黒で印刷する。
- 4) 連結 QR コードの場合は余白を大きめに取ってみる。

\*「ケータイ連携 QR データ変換」フォルダ内にあります。必ずハードディスク上にコピーしてからご利用ください。一般のテキストデータなどを QR コード化する場合は（携帯電話で読み込むことも含め）この変換ファイルは不要です。

■ Mac OS X 環境で、他のアプリケーションからバーコード ROBO4 / 組版 ROBO4・パレットのデータ入力欄へコピー＆ペーストしようとするとう Illustrator 書類上にペーストされてしまう。

これはバーコード ROBO4 / 組版 ROBO4 の不具合ではありません。この現象を回避するには、いったん書類上にペーストされたデータを command+X キーでカットしてから目的のデータ入力欄へペーストし直してください。

■ Mac OS X 環境で ROBO4 によるオブジェクト生成直後にショートカットキーによるアンドゥができない場合がある。

これはバーコード ROBO4 / 組版 ROBO4 の不具合ではありません。この場合は一度 Illustrator 書類上をクリックしてからショートカットキーによるアンドゥ／リドゥをおこなってください。

■ 取り込み可能なファイルフォーマットは？

エンコーディングが Shift-JIS または UTF-8（ユニコード符号化方式、CS6 以降用で対応）で、改行コードが CR、CR+LF または LF(\*) のテキストファイルが取り込み可能です。

「ROBO4 チュートリアル .pdf」の「組版 ROBO4 > データベース・ファイルについて」セクションもご覧ください。

(\*) CR=Carriage Return、LF=Linefeed

■ 対応言語については？

「バーコード ROBO4」は言語に依存しません。「組版 ROBO4」は CS6 以降用では UTF-8 符号化方式でユニコードに対応できます。

■ 「レコード順次取り込み配列」などで取り扱えるデータベース要素の最大値は？

以下の通り、実用上問題ないサイズです。

最大レコード数：2,147,483,647  
最大フィールド数：32,767 (\*1)  
最大フィールドサイズ：32,768 文字 (\*2)

(\*1) 1 レコード当たりの値  
(\*2) 半角換算（Illustrator の 1 テキストの最大容量）

■ その他

以下サイトのページをご覧ください。

株式会社フラッシュバックジャパン ROBO4 FAQ  
<http://flashbackj.com/barcode/faq/>

## ▶ サポートなど > お問い合わせ方法

製品のサポートは、以下の窓口にてお受けしております。

株式会社フラッシュバックジャパン 取扱製品 サポート  
<http://www.flashbackj.com/support/>

以下の場合には、お問い合わせに対する回答ができませんのでご了承ください。

- 1) ユーザ登録されていない場合
- 2) お問い合わせ内容についての情報不足
- 3) OS や Adobe Illustrator そのものや、併用アプリケーションに関するご質問
- 4) バーコードの（対応状況以外の）規格や仕様そのものに関するご質問
- 5) 本製品の指定環境外でのお問い合わせ
- 6) 本製品の内部的な非公開情報に関するご質問